

岩手県不動産市場動向に 関するアンケート調査結果

第29回調査（令和7年4月1日時点）

令和7年6月

一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会

公益社団法人 全日本不動産協会岩手県本部

一般社団法人 岩手県不動産鑑定士協会

岩手県不動産市場動向に関する第29回アンケート調査の実施によせて

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災を契機に3協会の共同で始めました岩手県不動産市場動向に関するアンケート調査（第29回）結果の概要は以下のとおりです。

- ① 住宅地については、価格DIは、実感・予測ともに県央部のみプラス。
取引件数DIは、実感・予測ともに全ての地域でマイナス。
- ② 商業地については、価格DIは、住宅地と同じく、実感・予測ともに県央部のみプラス。
取引件数DIは、住宅地と同様に、実感・予測ともに全地域でマイナス。
- ③ 中古住宅については、価格DIは、住宅地、商業地と同様に、実感・予測ともに県央部のみプラス。
取引件数DIは、実感・予測ともに全ての地域でマイナス、予測は県央部及び内陸南部がプラス。
- ④ 省エネ基準適合義務化が不動産取引等に及ぼしている影響として、更なる建築費等の上昇、手続きの煩雑化・長期化等を懸念する回答などが寄せられた。

①、②及び③について、住宅地価格DI、商業地価格DI及び中古住宅価格DIは、いずれも、実感・予測ともに県央部のみがプラスとなりました。引き続き県域内での二極化の情勢が表れていますが、前は住宅地、商業地及び中古住宅いずれにおいても、県央部とともにプラスであった内陸南部がマイナスとなったことで、県央部の”独り勝ち”の結果となりました。住宅地取引件数DI、商業地取引件数DIは、実感・予測とも全地域でマイナスであり取引が減少傾向であることを示しています。中古住宅取引件数DIをみると、実感DIが、前回プラスであった県央部及び内陸南部、横ばいだった内陸南部がいずれもマイナスとなり、全地域がマイナスの結果となりました。建築費の上昇等により、前回調査では需要増が伺われた中古住宅の取引が、今後どのような動向で推移するのかが注目されるところです。

④については、更なる建築コストの上昇による取引市場への影響を憂慮する回答が目立ちました。また、価格への転嫁には限界があり、手続・設計期間等の長期化などによる影響を含め、特に中小業者が被る負担が大きいとする声が寄せられました。適合義務化が今後どのような影響を及ぼすかは、建築費、金利、補助金等の施策などの動向にも左右されると思われますが、今回の調査では、住宅性能が担保されるなどの肯定的な回答は少なく、上記のようなネガティブなものが大半を占めました。

3協会では、当アンケート調査が、市場に関する情報の提供、関係者の意思決定に資するものとなるよう、改善を施しながら継続していきたいと考えておりますので、今後とも、当該調査活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、ご業務のなか貴重なお時間を割いて当調査にご理解とご協力を下さいました会員の皆様に、心より感謝いたします。

令和7年6月

一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会
会長 安藤 敏樹

公益社団法人 全日本不動産協会岩手県本部
本部長 浅沼 儀洋

一般社団法人 岩手県不動産鑑定士協会
会長 中井 孝

目 次

〔1〕 岩手県不動産市場動向調査の概要	1
1. アンケート調査の概要	1
2. 動向判断指数（DI）等について	3
3. アンケート調査票	4
〔2〕 アンケート集計結果	6
1. 調査結果の概要と動向判断指数（DI）による分析	6
（1）調査結果の概要	6
（2）動向判断指数（DI）による分析	14
2. 設問ごとの回答内訳	20
問3 取引価格の6ヶ月前（R6.10.1時点）との比較	20
問4 6ヶ月後の取引価格の予測	22
問5 取引件数の6ヶ月前（R6.10.1時点）との比較	24
問6 6ヶ月後の取引件数の予測	26
問7 賃料の6ヶ月前（R6.10.1時点）との比較	28
問8 入居率の6ヶ月前（R6.10.1時点）との比較	29
お問い合わせ窓口等	30

〔1〕岩手県不動産市場動向調査の概要

1. アンケート調査の概要

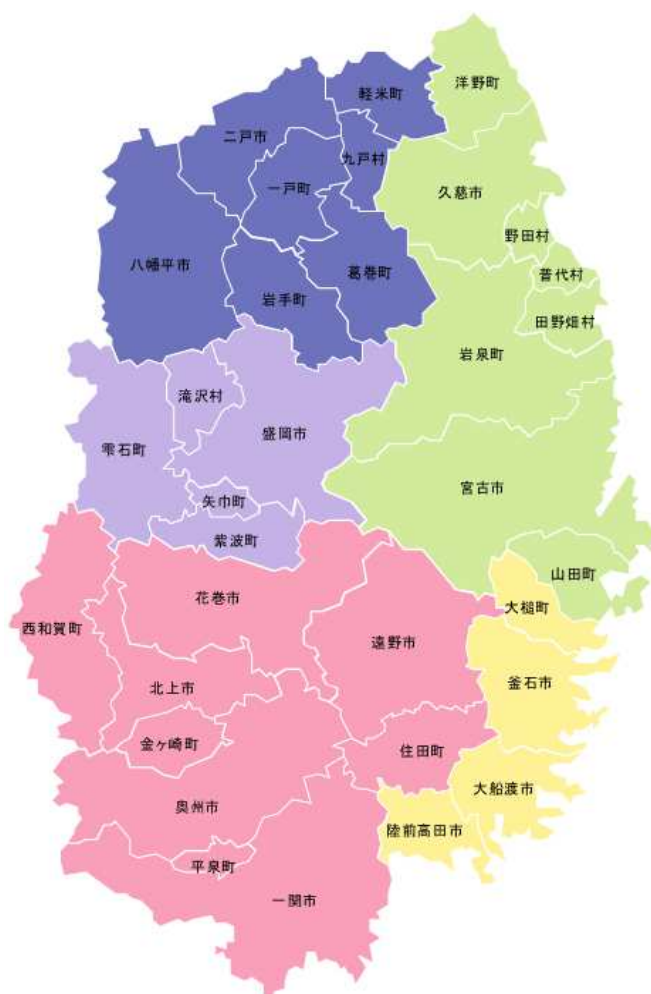
一般社団法人岩手県宅地建物取引業協会、公益社団法人全日本不動産協会岩手県本部及び一般社団法人岩手県不動産鑑定士協会の三者共同で、令和6年10月1日（第28回調査時点）から令和7年4月1日（第29回調査時点）までの6ヶ月間の不動産市場の推移に関する実感と、この先6ヶ月間（R7.4.1～R7.10.1）の市場動向に関する予測、不動産市場の特徴的な動き、国・県・市町村等に対する要望・意見等についてアンケート調査を実施した。アンケートの対象は一般社団法人岩手県宅地建物取引業協会及び公益社団法人全日本不動産協会岩手県本部の会員である。

なお、本調査は3ページのとおり定性調査であり、具体の取引件数、成約価格等の定量調査ではない。

- (1) 実施時期 令和7年4月
- (2) 調査方法 一般社団法人岩手県宅地建物取引業協会及び公益社団法人全日本不動産協会岩手県本部の会員に対するアンケート調査
- (3) 発送数 734
- (4) 回収数 216（回収率：29.4%）
- (5) 地域区分 沿岸北部、沿岸南部、県央部、内陸北部、内陸南部の5つに地域区分し集計した。

問1：回答者の主な営業地域

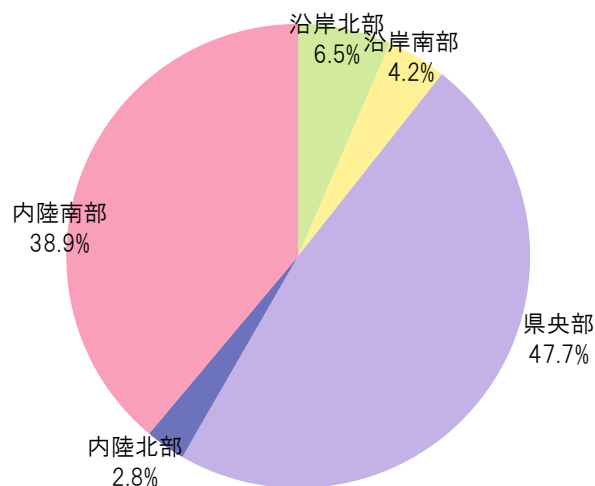
＜各市町村の地域区分＞



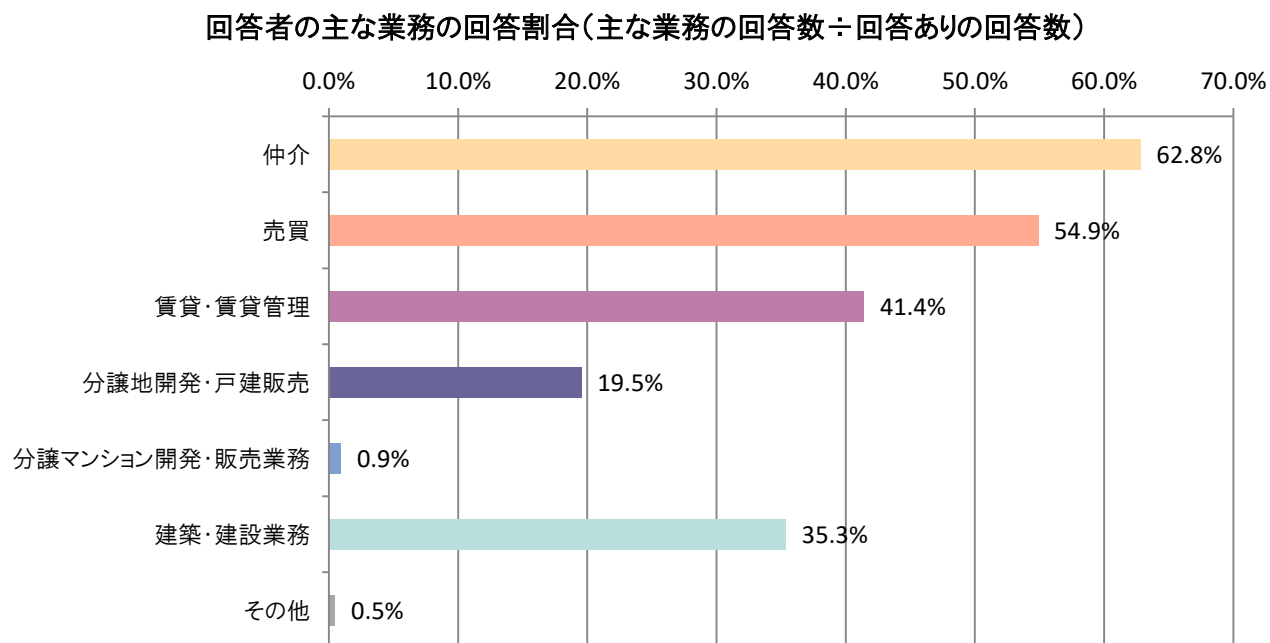
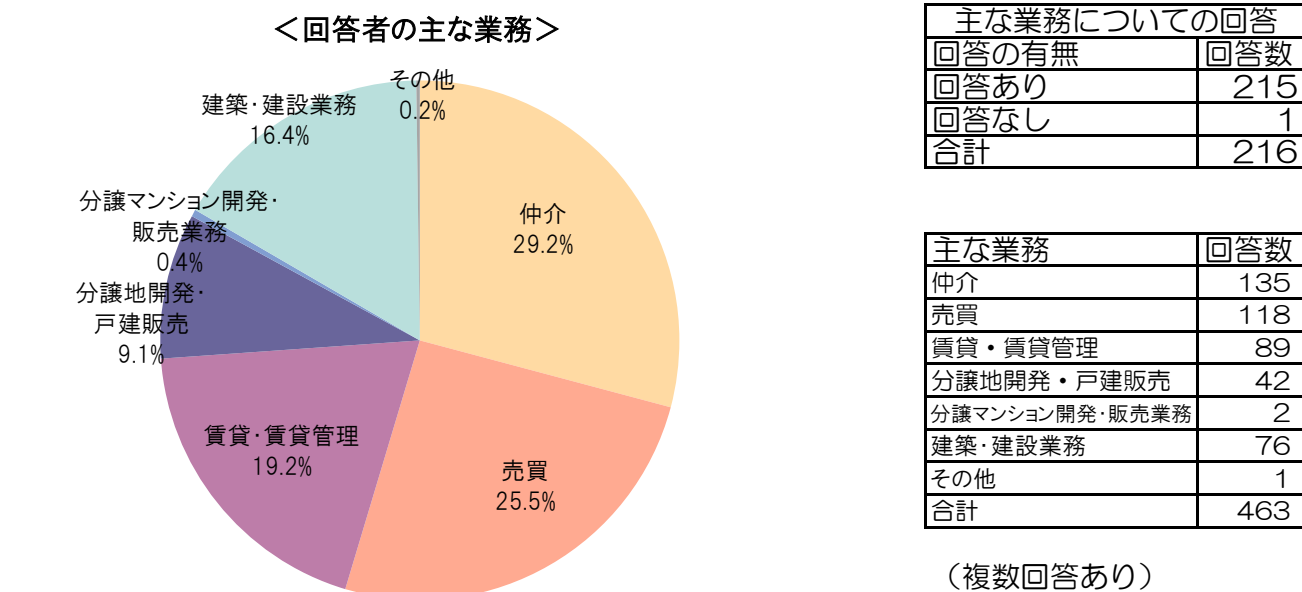
地域区分	地区名	発送数	回答数	回収率
	沿岸北部	56	14	25.0%
	沿岸南部	40	9	22.5%
	県央部	363	103	28.4%
	内陸北部	27	6	22.2%
	内陸南部	248	84	33.9%
	合 計	734	216	29.4%

※回収率は、発送数を事務所所在地を基準とし、回答数は、主な営業地域により計算している。

＜回答者の主な営業地域＞



問2：回答者の主な業務



仲介、売買を主な業務としている会員が多い。

2. 動向判断指数（DI）等について

（1）動向判断指数（DI）

① DIとは

DIとは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、現状や先行きの見通し等についての定性的な判断を指標として集計加工した指数であり、経済指標等において広く活用されている。

本調査においては、DIとして指数化することにより調査項目の時系列把握や地域間比較を行ったりすることが容易となる。

2 DIの算出方法

本調査におけるDIの算出方法は、各判断項目について上昇（増加）から下落（減少）までの5段階または3段階の選択肢を用意し、選択肢毎の回答数を単純集計して全回答数に対する構成比率を求め、次式により算出する。

<算出方法（5段階の例）>

住宅地の地価	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	不明 無回答
回答数	A	B	C	D	E	F

$$DI = \{ (A \times 2) + (B \times 1) + (D \times -1) + (E \times -2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

<算出方法（3段階の例）>

建築資材の価格	上昇	横ばい	下落	不明 無回答
回答数	A	B	C	D

$$DI = (A - C) \div (A + B + C) \times 100$$

※DIが0.0以上となれば回答者は市況に対して前向きに考えていると言え、理論上のDIの幅は、プラスマイナス100の範囲となる。

（2）中央値

中央値とは、データを大きさの順に並べたとき、全体の中央にくる値、データの数が偶数の時は、中央にある二つの値の平均値。

3. アンケート調査票

岩手県不動産市場動向アンケート(第29回)

■問1 県内における御社(支店・営業所の場合は当該支店・営業所)の主な営業地域についてお聞かせ下さい。

(最も取引件数の多い市町村をひとつ選んで○をつけるか、【】内に記載してください。例：奥州市江刺、一関市大東町等)

1.盛岡市 2.八幡平市 3.滝沢市 4.紫波町 5.矢巾町 6.雫石町 7.岩手町 8.葛巻町 9.花巻市 10.遠野市 11.北上市
12.西和賀町 13.奥州市 14.金ヶ崎町 15.一関市 16.平泉町 17.久慈市 18.洋野町 19.野田村 20.普代村
21.田野畑村 22.二戸市 23.一戸町 24.軽米町 25.九戸村 26.宮古市 27.釜石市 28.大槌町 29.岩泉町
30.山田町 31.大船渡市 32.陸前高田市 33.住田町 【 】

■問2 御社(支店・営業所の場合は当該支店・営業所)の主な営業業務についてお聞かせ下さい。
(○印をお願いします。複数回答可)

1.仲介業務 2.売買業務 3.賃貸・賃貸管理業務 4.分譲地開発・戸建販売業務
5.分譲マンション開発・販売業務 6.建築・建設業務 7.その他()

以下、設問3～8は、調査・集計の性格上、可能な限り1～5の選択肢でのご回答をお願いします。地域によっては、取扱いがない、もしくは極めて少ない不動産(例：産業用地)の場合、「6.不明」の場合もあるかと思えます。

■問3 現在(R7.4.1時点)の主な営業地域の取引価格は、6カ月前(R6.10.1時点)と比較してどのように感じていますか？

住宅地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
商業地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
産業用地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
中古住宅の価格： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明

※1 産業用地は、工場・倉庫・物流施設用地、資材置場用地等についてご回答をお願いします、以下同様です。

■問4 6カ月後(R7.10.1時点)の主な営業地域の取引価格は、現在(R7.4.1時点)と比較してどうなると予測しますか？

住宅地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
商業地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
産業用地の地価： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明
中古住宅の価格： 1.大きく上昇 2.やや上昇 3.横ばい 4.やや下落 5.大きく下落 6.不明

■問5 現在(R7.4.1時点)の主な営業地域での取引件数は、6カ月前(R6.10.1時点)と比較してどのように感じていますか？

住宅地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
商業地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
産業用地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
中古住宅の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明

■問6 6カ月後(R7.10.1時点)の主な営業地域での取引件数は、現在(R7.4.1時点)と比較してどうなると予測しますか？

住宅地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
商業地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
産業用地の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明
中古住宅の取引： 1.大きく増加 2.やや増加 3.横ばい 4.やや減少 5.大きく減少 6.不明

■問7 現在(R7.4.1時点)の賃料は、6カ月前(R6.10.1時点)と比較してどのように感じていますか？

住居系不動産の家賃： 1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 不明

その他不動産の家賃： 1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや下落 5. 大きく下落 6. 不明

■問8 現在(R7.4.1時点)の入居率は、6カ月前(R6.10.1時点)と比較してどのように感じていますか？

住居系不動産の入居率： 1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや低下 5. 大きく低下 6. 不明

その他不動産の入居率： 1. 大きく上昇 2. やや上昇 3. 横ばい 4. やや低下 5. 大きく低下 6. 不明

■問9 営業地域の不動産取引で特徴的なことがありましたら教えてください。

■問10 本年4月の、全ての建物への省エネ基準適合義務化が不動産取引等に及ぼしている影響、今後予想される影響などについて、ご自由にお書きください。

(記載例：住宅性能が担保され、各種補助金や減税もあるので、当面は取引市場にとって良い影響をもたらすと思う。etc.)

■その他 (先行きの動向予測や、国、県、市町村、当調査等へのご意見・要望などを、ご自由にお書きください。)

以上で質問は終了です。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。本アンケートへのご回答は、**令和7年4月30日(火)**までに、①Webアンケートフォーム(同封の添書ご参照)で回答、②下記のFAX番号宛に返信、③同封の返信用封筒にて返信、のいずれかの方法でご回答をお願いします。なお、郵便料金が高額な折り、できましたらWebまたはFAXでご回答・ご返信いただけますと幸いです。

一般社団法人岩手県不動産鑑定士協会 FAX番号 **019-622-8485**

差し支えなければ、下記についてご回答をお願いいたします。(貴社名等はタナ版でも結構です。)

所 属 協 会	☐ 一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会
どちらかに○印をつけてください	☐ 公益社団法人 全日本不動産協会 岩手県本部
貴社名(営業所・支店名)	
〒 番 号 ・ ご 住 所	
電 話 番 号	
ご 担 当 者	

〔2〕アンケート集計結果

1. 調査結果の概要と動向判断指数（DI）による分析

（1）調査結果の概要

■ 住宅地の価格

内陸南部がR3/10時点以来のマイナスに転じ、県央部のみプラスの結果となった。内陸北部は、横ばいから再びマイナスに。沿岸北部及び沿岸南部は、マイナスの推移を継続。予測は、引き続き県央部のみがプラスの結果となった。

過去5回（R4/10、R5/4、R5/10、R6/4、R6/10）から今回調査（R7/4）に至る住宅地価格DI（実感）の推移をみると、沿岸北部が▲45.5⇒▲31.3⇒▲31.8⇒▲35.7⇒▲33.3⇒▲19.2、沿岸南部が▲28.6⇒▲35.7⇒▲40.0⇒▲34.6⇒▲33.3⇒▲43.8と、両地域ともにマイナスを継続し、住宅地需要は低調な推移を継続している。

その他の地域は、県央部が30.0⇒28.1⇒22.9⇒23.9⇒12.5⇒21.0と、DI値を拡大させつつ引き続き堅調に推移している。また、内陸北部は10.0⇒▲13.6⇒▲5.0⇒▲5.0⇒0.0⇒▲8.3と、横ばいから再びマイナスとなり、内陸南部は4.8⇒12.5⇒2.4⇒5.2⇒7.7⇒1.3と、7調査回ぶりのマイナスに転じた。

■ 商業地の価格

内陸南部が再びマイナスとなり、住宅地価格と同様に、県央部のみプラス。予測も、住宅地と同じく、県央部のみがプラスの結果となった。

過去5回から今回調査に至る商業地価格DI（実感）の推移をみると、沿岸北部が▲25.0⇒▲33.3⇒▲30.0⇒▲35.7⇒▲50.0⇒▲23.1、沿岸南部が▲28.6⇒▲28.6⇒▲35.7⇒▲34.6⇒▲16.7▲43.8と、引き続きマイナスとなり、住宅地と同様に需要の低迷が続いている。

その他の地域は、県央部が9.8⇒14.2⇒11.5⇒20.5⇒10.5⇒18.2と、プラスの推移を継続し、DI値も拡大している。また、内陸北部は11.1⇒▲22.2⇒▲7.1⇒▲11.1⇒▲50.0⇒0.0と、マイナスから横ばいに改善した一方、内陸南部は▲1.6⇒▲1.0⇒▲6.0⇒▲1.0⇒4.2⇒▲2.2と、再びマイナスとなった。

■ 中古住宅の価格

内陸南部がマイナスとなり、住宅地・商業地価格と同じく、県央部のみプラス。沿岸南部は横ばいから再びマイナスに。予測も県央部のみがプラスの結果となった。

過去5回から今回調査に至る中古住宅価格DI（実感）の推移をみると、沿岸北部が▲15.0⇒▲28.6⇒▲31.8⇒▲39.3⇒▲33.3⇒▲26.9、沿岸南部が▲19.2⇒▲38.5⇒▲33.3⇒▲46.2⇒0.0⇒▲31.3と、南部がマイナスとなり、再び両地域とも需要の低迷が表れた結果となった。

その他の地域は、県央部が25.0⇒26.0⇒17.5⇒15.9⇒15.2⇒21.1と、住宅地・商業地価格と同じく、DI値を拡大させつつプラスを継続した。内陸北部は10.0⇒▲9.1⇒▲10.0⇒▲15.0⇒▲50.0⇒▲8.3、内陸南部は▲1.5⇒3.8⇒▲8.3⇒0.0⇒3.6⇒▲4.5と、南部が再びマイナスとなり、両地域ともマイナスの結果となった。

■ 賃料

住居系不動産賃料は、県央部がマイナスからプラスとなった一方、内陸北部がマイナスに転じ、県央部のみがプラスとなった。

■ 問9：営業地域における不動産取引で特徴的な事項

① 沿岸北部

(久慈市)

- ・ 建築費の高騰で、土地を買い求める消費者が無い状況。住居系土地の単価を低く設定しても、動きが無い。

(宮古市)

- ・ 震災後新築した物件（土地建物）が、中古として市場に出てきた。
- ・ 売りたい人は多いが、買い手がない。

② 沿岸南部

(釜石市)

- ・ 売手＞買手

(大槌町)

- ・ 人口減と流入人口減のため、取引の引き合いも減っている。

③ 県央部

(盛岡市)

- ・ 賃貸の退去が少ない。
- ・ 高所得者層向けは満室。（空いても決まる）
- ・ 建築費の高騰により、土地の価格が安いところの問合せが増えている。
- ・ 今年に入り60歳以上のシニア層の中古住宅購入が増えている。住宅＝ファミリー層ではなく単身者（老若男女）、お二人様（シングルマザー・親子）等、住宅購入者の家族構成が多様化している。
- ・ 昭和56年築位の古い建物が多い。
- ・ 建築費用が上昇しているため、土地を安く探す方が増えている。地価も上昇しているため、要望通りにはいかない。巣子方面、岩手県立大学・盛岡大学の学生は2万円台の家賃、家電（冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ）付の成約が増。
- ・ 賃料の値上げを行うオーナー様が出始めた。
- ・ マンション業者の撤退。
- ・ 当社は繁華街にあるのでテナント関係の問合せが多い。
- ・ 津志田エリアでの事務所・店舗の問合せが増加している。
- ・ 空き家の処分等の件数（相談）が増加している。
- ・ 住居系賃貸不動産について、既存物件の空室が非常に目立ち、新築物件についても以前よりも入居率がよくないように感じている。人の動きが悪く、空いてから入居する方がなかなか見つからない。
- ・ 売買については建築費が高騰して、ホームを建てられる人が限られている。
- ・ 相続した不動産の取引・相談が数年増え続けていて、賃貸において「安価の家賃」でのお探しより「住まいの設備の充実」に重きを置いてお探しの方が増えた。
- ・ 建設費の高騰により、土地購入予算が以前より低いと感じる。
- ・ 地域の格差より、地点での格差が増加。
- ・ 土地の値段が上がっており、建物にかかる予算が減少傾向にある。マンションが増えており、戸建の需要が減っている。
- ・ 収益物件では借り入れ不調が頻発した。

- ・ 売地の引き合いが激減している。
- ・ 新築住宅（戸建、マンション）の販売価格が高騰している。
- ・ 高い物件でも良ければ売れる。

（紫波町）

- ・ 建売分譲住宅販売が多くなった。

（矢巾町）

- ・ 学生向け物件の空室が目立つ。
- ・ 中古住宅、売地の需要はあるが、物件がない。新築物件の価格が上昇している。（売買・賃貸ともに）
- ・ 店舗などの需要はあるが、物件がない。あるいは価格が高すぎて入らない。入ってもすぐ退去することが多い。

（滝沢市）

- ・ 特には無い。以前と状況はたいして変わらない。

④ 内陸北部

（二戸市）

- ・ 空き家の増加。

⑤ 内陸南部

（遠野市）

- ・ 古い空き家（40年～50年）の相談（売却・処分）が増加。
- ・ 企業の進出により人口が増加傾向にあるが、将来的には住宅着工数が増えるのではないかと考えられるが区画整理された土地の整備も大事か。

（北上市）

- ・ 大規模工場や倉庫などの進出や誘致によって、不動産の流通も左右されている。単身用のアパート建築が顕著であるが、新築は特に家賃設定が高水準であり、空室が目立つ。
- ・ 法人契約が、個人契約に比して多い。
- ・ 過熱傾向は冷めたが、一般住宅の市場は共同住宅建設等のカテゴリーとは切り離して考える状況であった。共同住宅建築も下火で、本当のマーケットが実体化しつつあるようだ。
- ・ 土地、建物の金額が微増している。

（奥州市）

- ・ 新築建売が売れていない。新築アパートの入居率も低いように思われる。
- ・ 奥州市の古い商店街の空き店舗が、固定・恒久的な物になってきた。引き合いがないため、回復見込みがない。一方で4号線沿いの動きが比較的増えた感じがするが、地元水沢の資本ではなく、地域経済へのインパクトはない。
- ・ 賃貸アパートの増加。
- ・ アパートが相当増えた。

（一関市）

- ・ 市内中心地より少し離れた比較的価格の安い広めの面積の物件が動いているように感じる。
- ・ コストの急上昇からくる土地の価格の低い方でバランスを取っているように感じる。
- ・ 転勤・引越、住み替えが減少している。

■ 問10：全ての建物への省エネ基準適合義務化が不動産取引等に及ぼしている影響等

① 沿岸北部

(久慈市)

- ・ 住宅性能が担保されることで、各種補助金を受けられるメリットはあるが、性能を上げることで建築費にも反映されるとするなら補助金とのバランスが気になるところである。

(宮古市)

- ・ 費用が高く新築がどうなるか。

(山田町)

- ・ 取引実態がないので不明。

② 沿岸南部

(釜石市)

- ・ さらなる建築コストの上昇を招いてしまう。

③ 県央部

(盛岡市)

- ・ 建物本体価格が増えるため、取引量の減少が懸念される。
- ・ 土地契約から引渡しまでが長くなった。
- ・ 一定水準の線引きが明確になるのは良い一方で、地球温暖化に意義・価値を見いだせない層にとっては価格高騰要因、手続きの煩雑さ等、マイナス面が目立つ。EV車同様に5年先、10年先もこの方向に進むとは予測できない。
- ・ アパート・貸家の家賃が上昇。
- ・ アパート・貸家の供給減。
- ・ 現況、取引金額の低下。解体件数の増加。
- ・ リフォーム・新築工事等が厳しくなり、値上がりとなり取引市場は低迷すると思う。
- ・ 施行されてから数年経過して、中古住宅にこだわる方がいるかもしれない。現在実務上、お客様よりハウスメーカーが苦戦している。
- ・ それだけが原因ではないが、建築費が高騰することにより新築は減っている。中古取引で省エネ基準が購買意欲を高めるとも思えない。SDGSにはなっているのだろうが、取引市場に良いことはないと思う。
- ・ 中古住宅（木造戸建）を購入してフルリフォームを検討する顧客が減少すると推察される。理由は省エネ適判対応できる事業者が少ないため。中古はマンションの取引は堅調に推移すると思われる。
- ・ 補助金の額も年々下がっており、メーカー・不動産業界ともに新しい申請など増えていくイメージで、売却の手間やトラブル等も増えたりするのではないかと懸念している。
- ・ 建築材料、施工費の上昇により、持ち家を考える人は中古住宅を買うようになると思う。
- ・ 引渡しまでに時間がかかる場合が増えている。
- ・ 2月、3月は法改正前の駆け込み的な売買があった。4月以降は悪い影響があるかもしれない。
- ・ 先の状況を見てみないと影響の有無はわからない。
- ・ 省エネ基準が高くなることは良いが、設計・管理業務が増えてくるので時間とコストが高くなると思われる。大手は良いが、中小は厳しいと思う。
- ・ 現時点で影響があると思われる事象はない。
- ・ 建築物価格が上昇する。

- ・ 建築着工及び引渡が例年より遅れることと、作業量が増えることにより業界全体の利益が減る。もしくは販売価格に上乗せすることにより販売価格が上がる。
- ・ 建築コストの上昇に更に拍車がかかる。
- ・ 快適な住環境が整う反面、建築費用の増加が懸念される。
- ・ 建材の価格高騰や金利の上昇と併せて相当な影響がある。現状の補助金のみでは補填できない。
- ・ 物件価格の上昇による取引量の減少
- ・ 販売価格高騰の一端を担っている。より人材不足の影響を大きくしている面はある。
- ・ 確認申請に時間が掛かる。

（紫波町）

- ・ リフォーム費用が多額になり、場合によっては新築住宅並の中古戸建の金額になるのでは。
- ・ 省エネ基準適合義務化により、住宅性能が担保され良い影響をもたらすと思うが、反面、住宅コストが増加し、また、建築基準法の手続きが遅れることも予想されるため「いたしかゆし」ではないかと思う。
- ・ 物価の上昇＋建物価格の上昇で購買意欲が低下するのではないか。

（矢巾町）

- ・ 住宅単価の上昇により、購入意欲が減少しないか懸念している。
- ・ この施策に対する補助金等がどれだけあるのか周知されることも必要。

（滝沢市）

- ・ 建築会社の事務手続きの手間やコスト（人件費など）が増えると思われる。

④ 内陸北部

（二戸市）

- ・ 住宅の価格が上がることで、土地取引価格の下落が見込まれる。
- ・ 戸建ての賃貸住宅の少し古くなった物は、リフォームより取り壊しが増えているように思う。

⑤ 内陸南部

（遠野市）

- ・ 今後新築される建物は良い性能で評価されるので良いと思う。逆に今問題となっている空き家（性能が低いもの）はなかなか売却に苦しむことになると思う。
- ・ 住宅価格の上昇により、着工数が低所得者の地域は減るのではないか。

（北上市）

- ・ 中古住宅の取引において、増改築の観点からやや複雑になっている認識を受けている。中古住宅の流通促進と空き家対策における観点からは、逆行している印象である。
- ・ コスト増により、取引が減少するものではないかと懸念している。
- ・ 着工建築件数が連続してマイナスであるため、建設業者が更に負担になる。地方では実態の収入が上昇しているとは考えていないため、住宅ローン申請の上では借入額が伸びるわけではなく、建設できないケースも多くなる。義務は仕方ないにせよ、建材の高騰化で住宅購入の壁となりかねない。
- ・ 弊社は従前から基準を満たしているので影響はない。

（奥州市）

- ・ 県内の新築着工棟数は更に落ち込み、省エネ基準の義務化により中古・再販市場も当面は低調に推移すると思われる。

- 補助金・減税があったとしても、近年の物価の上昇、建築確認4号特例の見直し等があり、下落する影響が出ると思う。
- 旧基準の中古建物価格が下がるため、売り手にとってはマイナスであり、適合へのコストが上乗せとなった物件は、買い手の負担増となる。
- 中小零細の建築会社ほど大変になるのではないかな？

(一関市)

- 義務化により高コストの建築を強いられているように感じる。一般消費者に大きな負担。補助金や減税では追いつかないと感じる。太陽の恵みを限度とする低コストの家が良いと思う。
- 当地域工務店の住宅は減少すると思う。建築単価が上がるため、住宅は減少傾向になると思う。
- 先々の中古住宅には良いが、数十年後の事かと。今々の中古住宅が増加していること、解体費の値上がりに問題がある。

■ その他（先行きの動向予測や、国、県、市町村、当調査等への意見・要望等）

① 沿岸北部

回答なし

② 沿岸南部

回答なし

③ 県央部

（盛岡市）

- ・ 盛岡市内でのマンション建築ラッシュが止まらない。将来の空き家増加が懸念される。
- ・ 住宅ローン金利が上がっていくことが見込まれるので、給付金等の対策がなければ、平均以下の収入の人は厳しいのではないかと思う。
- ・ 地価の下落と二極化へ。
- ・ 新築マンション、新築建売りの乱立は今までにない深刻な問題となりそうだ。新築空き家問題ともいうべきか。
- ・ 国や県は空き家対策と謳うが、市町村レベルでは危機感はなく行政の意識の差を感じる。
- ・ 手続きや対象条件が難しいリフォームや中古住宅購入の補助金を作してほしい。
- ・ 某町で空き家をどうにかしてくれないかと依頼された。町の空き家対策室の方が相続人を確認したが、それ以上は対応してくれなかった。空き家の活用のため、もう少し気の利いた対応をしてほしい。
- ・ 全国で問題となった闇バイトなどの影響で、空き地・空き家所有者宅への訪問が以前に比べても大分身構えられるようになっている。県や市と打ち合わせし協力しながら、有効活用や所有者へのアプローチを模索できれば良いと考えている。
- ・ 昨今の物価上昇の影響で、新築着工数の減少が懸念事項だ。（ハウスメーカーへの販売が主な売り上げのため。）
- ・ 物価高騰等に対する補助制度を更に拡充してほしい。
- ・ 建設業界の買い控えが進む可能性が高く、各社の相場の引き上げは数年後以降売買に大きく影響が出る。取引事例が正しいとは考えず、様々な視点から判断すべき。（岩手県全域で共有できると良い。）
- ・ 申請関係の簡素化。
- ・ 増税、物価上昇、所得格差がひらいていくと不動産の動きが更に活発化していくのでは？と予測している。
- ・ 相続登記申請の義務化がスタートしているが、年代が古い未登記案件など費用等の問題が発生し困っている方が多数いるようだ。簡便かつ費用負担が軽減できる仕組みを国に要望
- ・ 補助金や税優遇を充実させてほしい。
- ・ ますます価格が上がる要素しか無い。

（紫波町）

- ・ 土地開発行為許可申請に伴う所管課の手続きが遅れる傾向を目の当たりにしており、各行政機関担当者の人員不足も重なり、更に遅延することも予想される。できるだけ簡素化した手続きスキームを、国には示してほしい。

（矢巾町）

- ・ 農地付中古住宅の売却相談が増えた。今後、調整区域内での物件が増えると思われる。

④ 内陸南部

(北上市)

- 様々な法改正や規制の変化、補助金などの申請及び内容などに関しての講習会の開催などがあっても良いと思う。
- 補助金等を有効活用して欲しい→現状は建築時期が一致したから支給されている

(奥州市)

- 移住者に対して積極的な支援・施策を打ち出してほしい。
- 4月1日から始まった改正建築基準法の申請が変わり、分厚い資料の提出となった。それが本当に必要だろうか？そして仕上げ表など膨大な資料を誰が見て管理するのか？必要なのか？疑問に思う。
- 人口減少に向けた不動産の整理を進める施策を積極的に推進すべき。

(一関市)

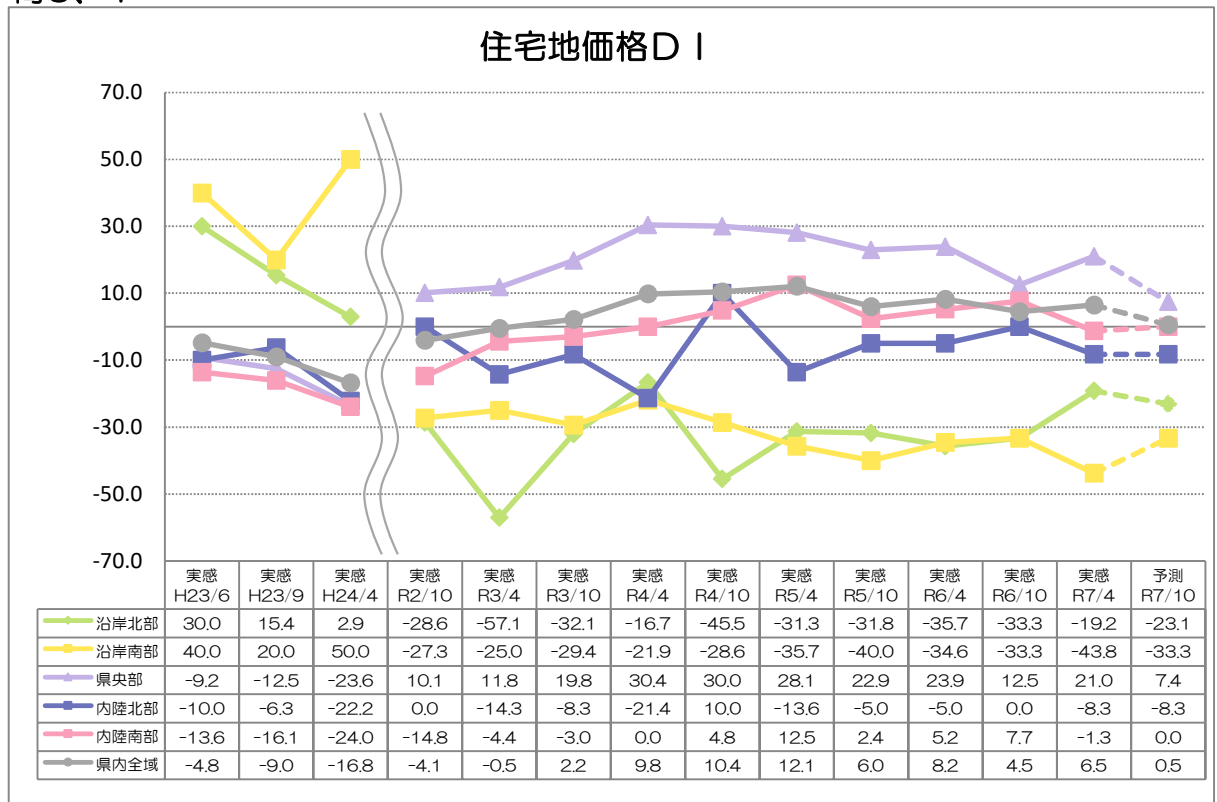
- 人口減少、農業継承者の減少を、困るのではなく事実として受け止め、従来の有るべき姿（私にもよく理解できませんが、何時、どの時点を基準に考えるのかという問題）に帰ることが大切。
- このままでは荒地、荒家屋が周辺に増え続けることを問題視し、対策をとることが必要。街が壊れてゆく現状。

⑤ 内陸北部

回答なし

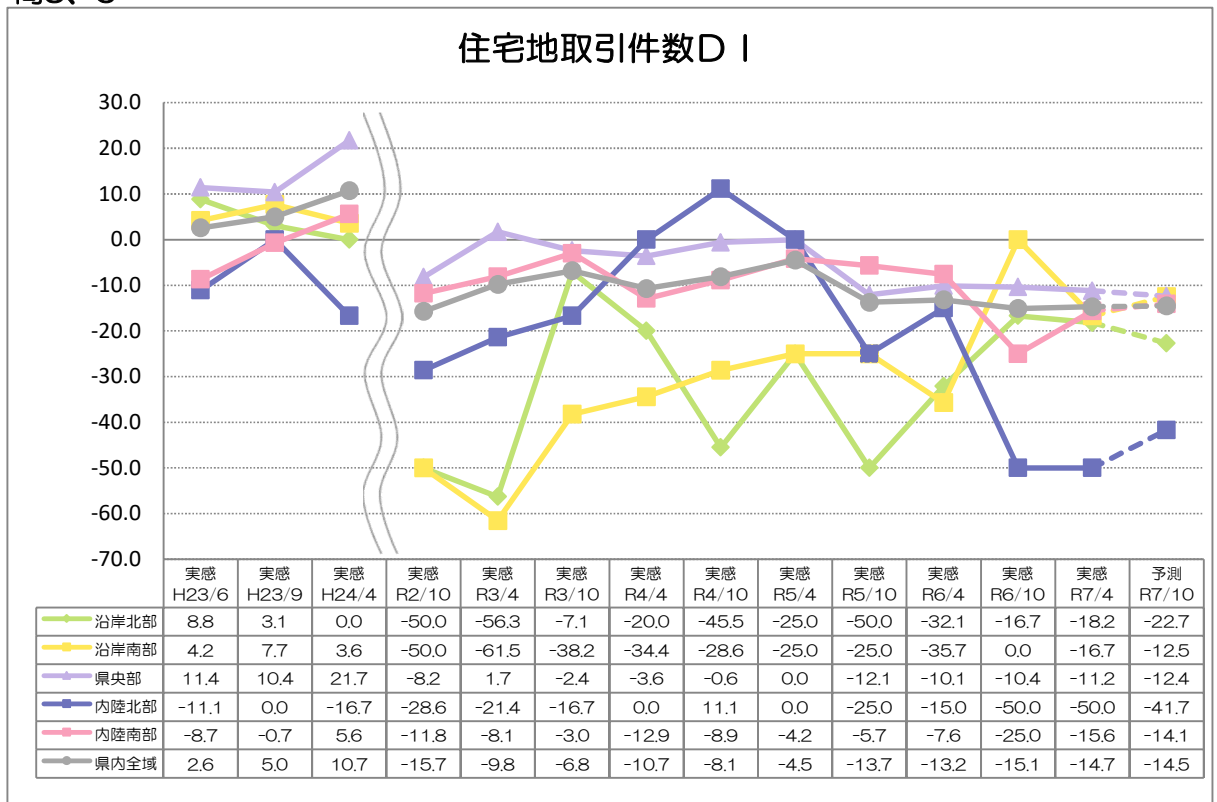
(2) 動向判断指数(DI)による分析

問3、4



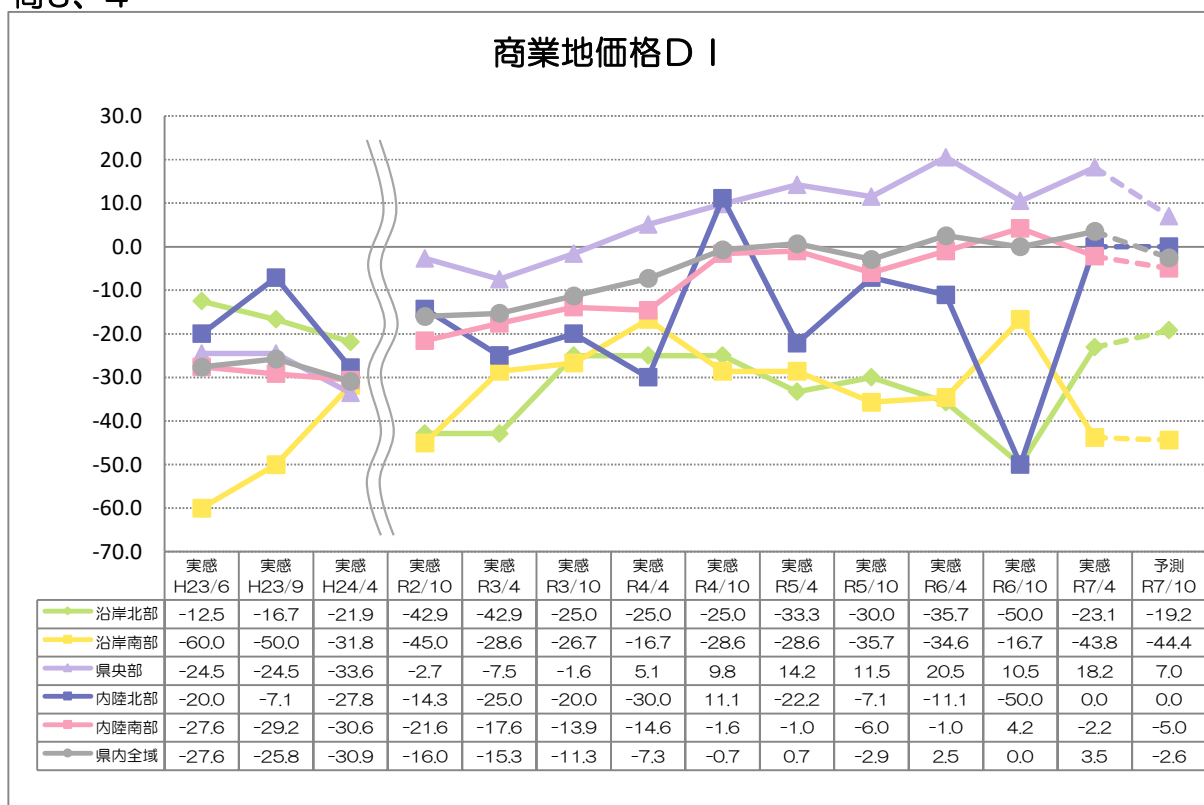
※実感H23/6は第1回調査（H23.6.1時点）の調査結果、実感H23/9は第2回調査（H23.9.1時点）の調査結果、実感H24/4は第3回調査（H24.4.1時点）の調査結果で、以後半年ごとの調査。（以下同様）

問5、6

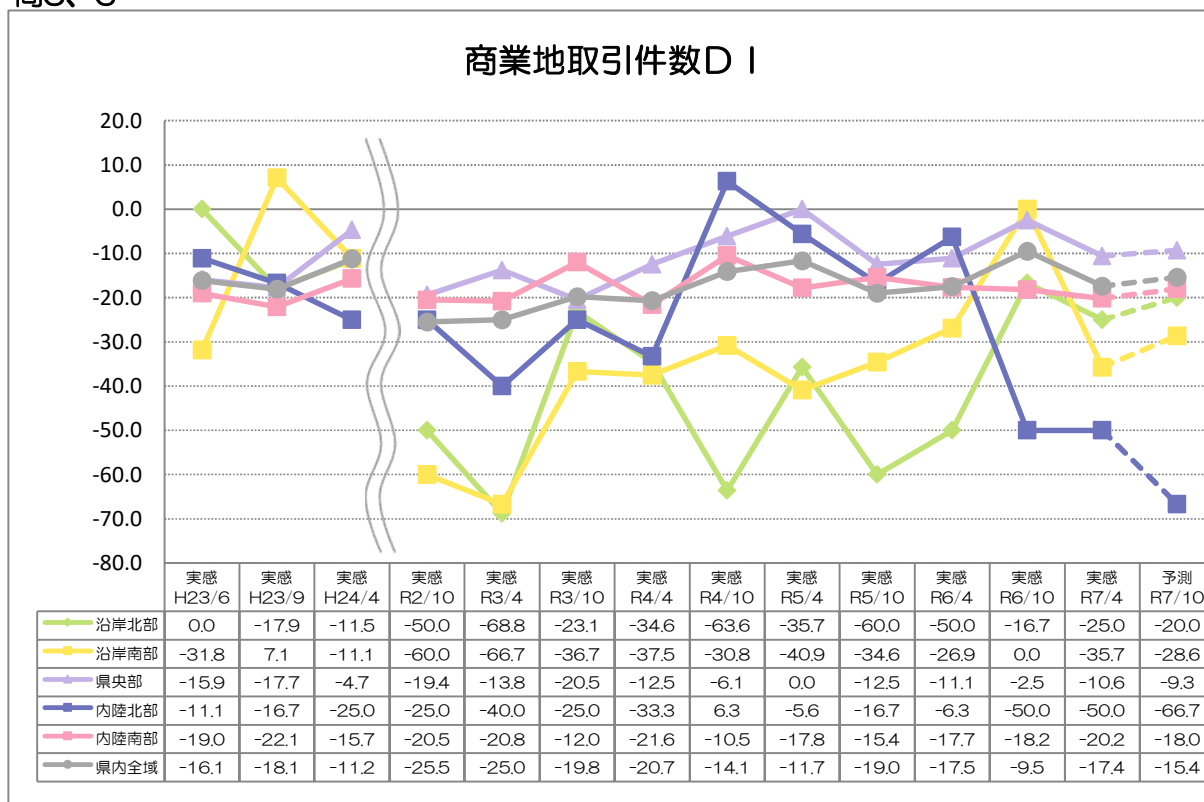


- 住宅地価格DIは、実感・予測とも県央部のみプラス。
- 住宅地取引件数DIは、実感・予測とも全ての地域でマイナス。

問3、4

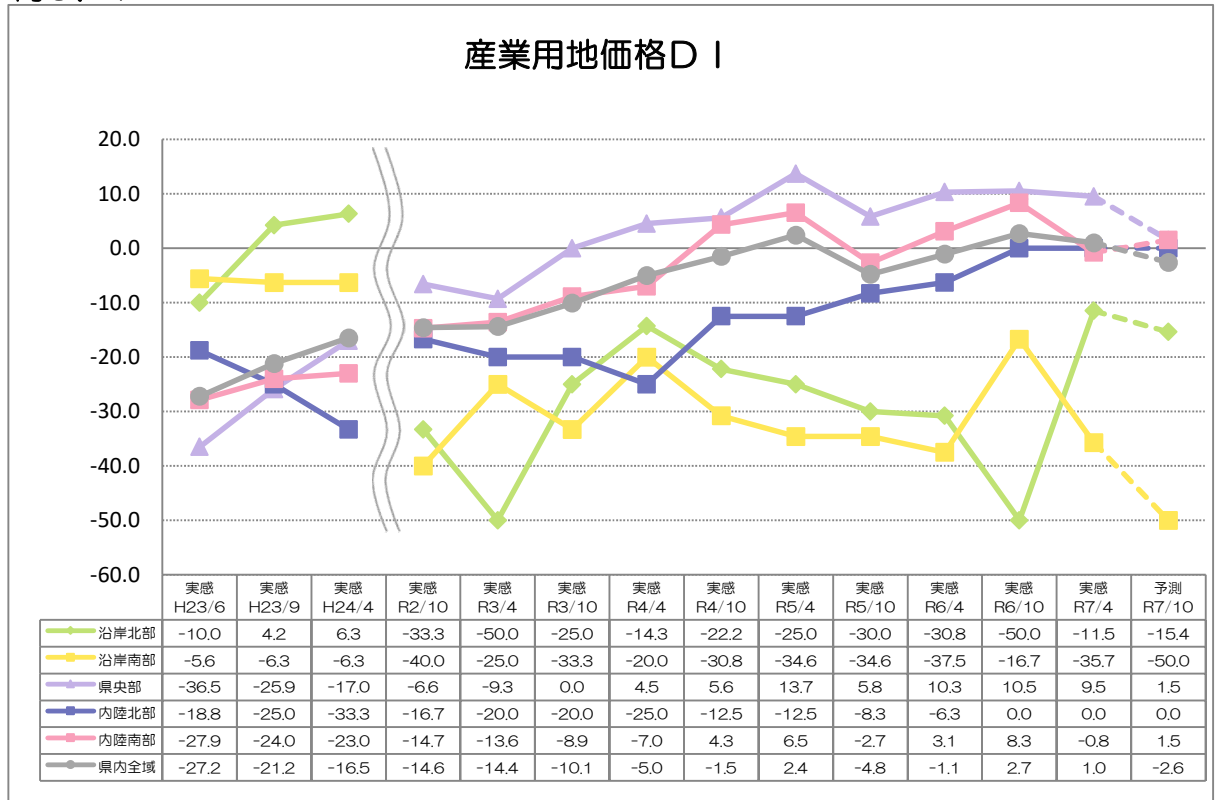


問5、6

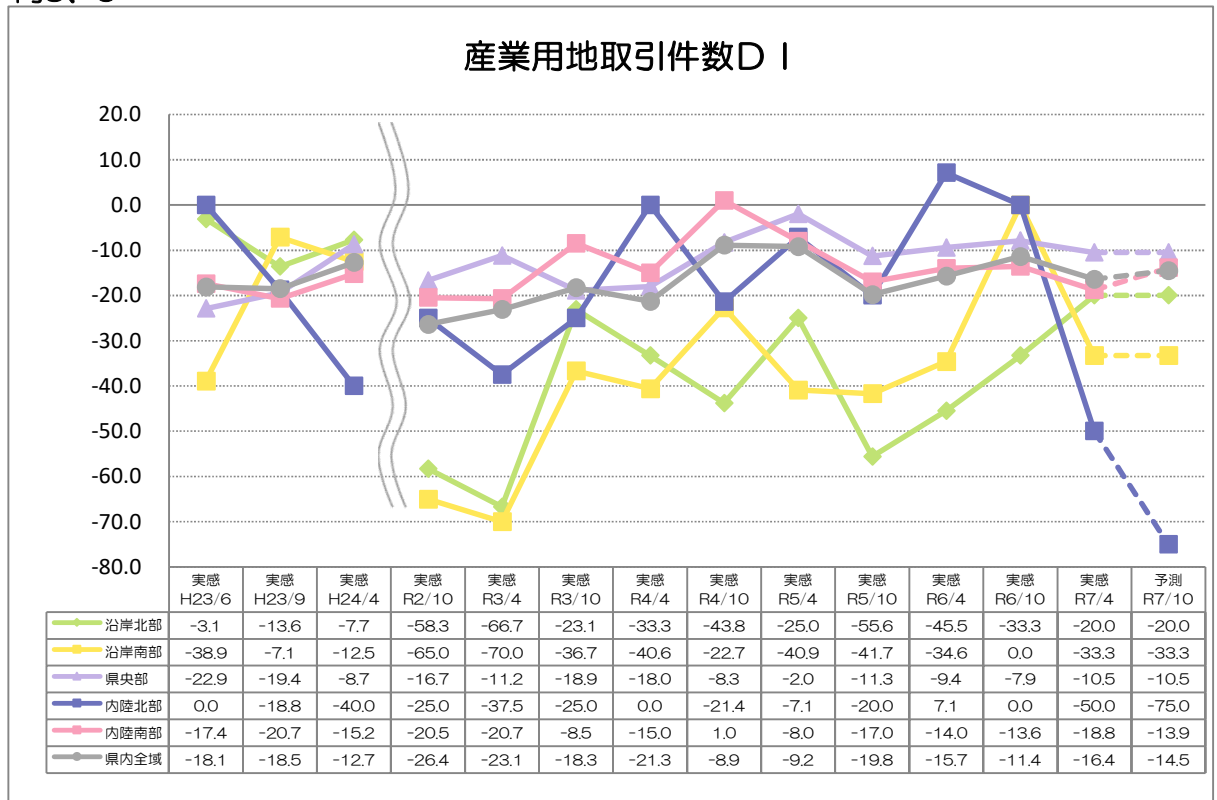


- 商業地価格DIは、内陸南部の実感が再びマイナスとなり、実感・予測とも県央部のみプラス。
- 商業地取引件数DIは、沿岸南部の実感が横ばいからマイナスとなり、実感・予測とも全ての地域でマイナス。

問3、4



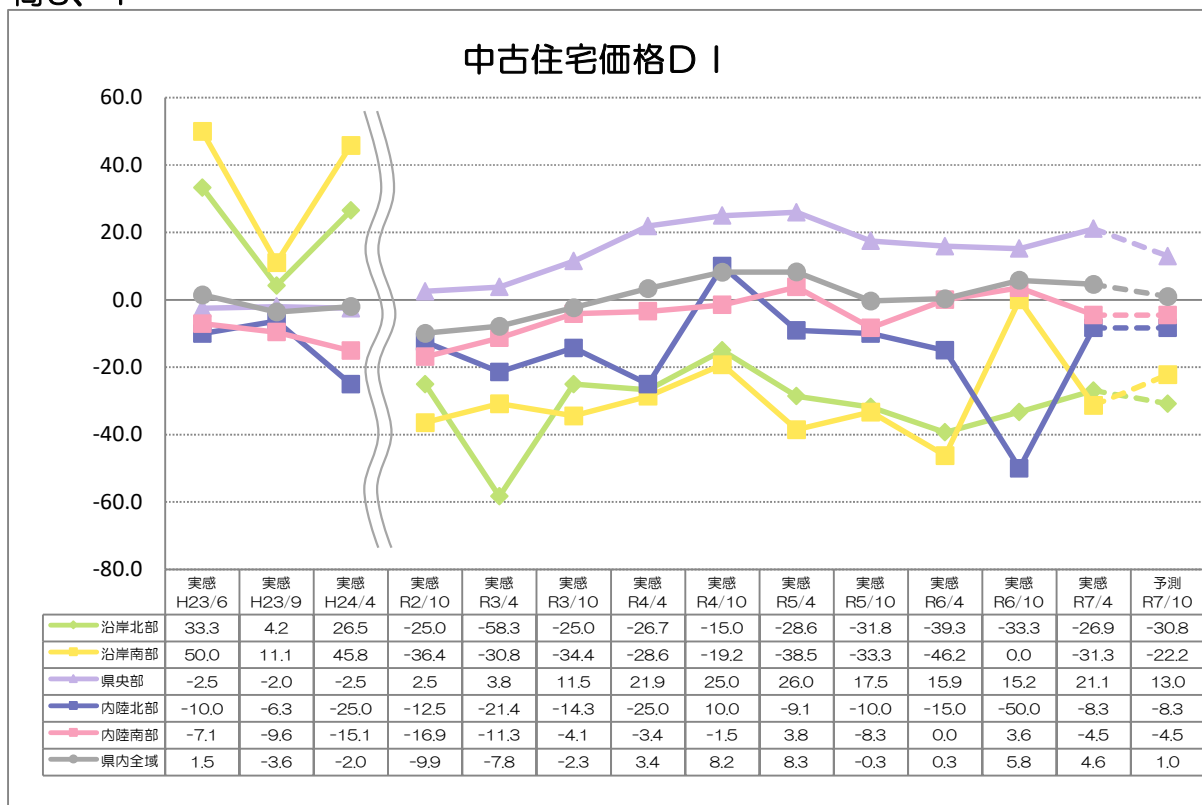
問5、6



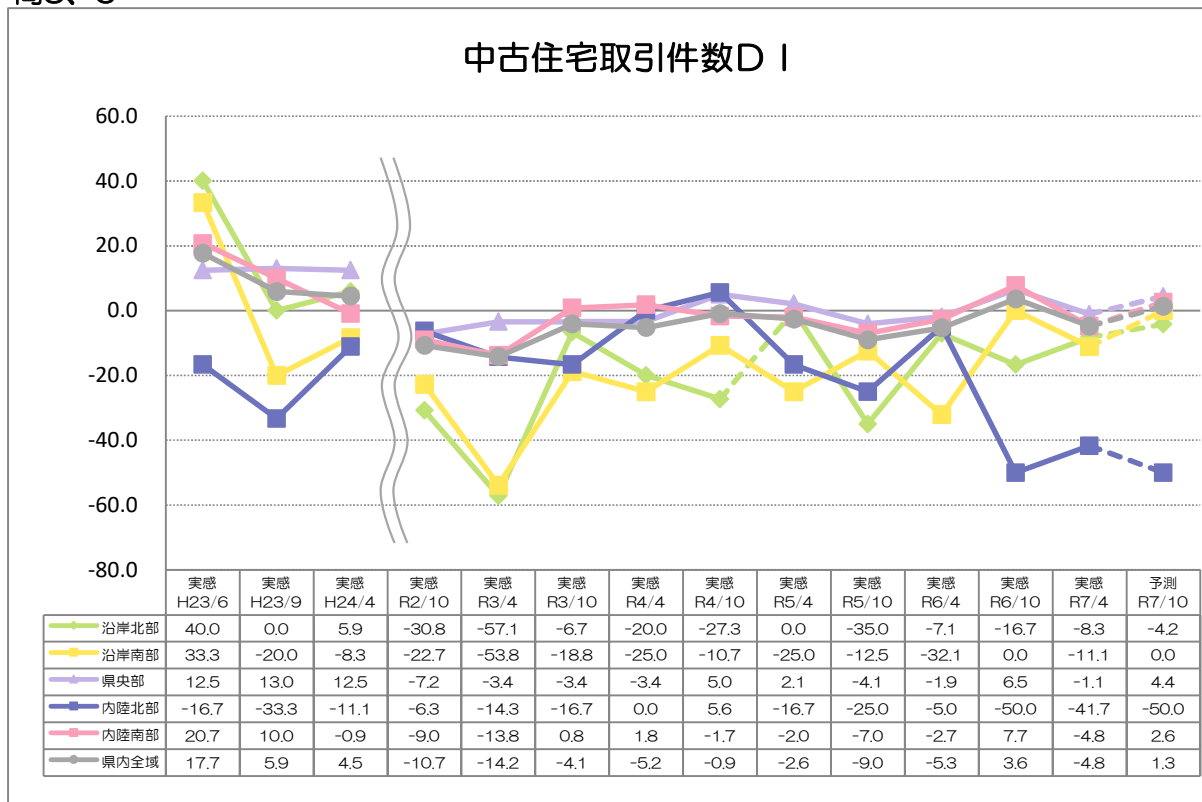
※ 価格・取引件数とも、内陸北部のR6.10は無回答または不明の回答であり、便宜上0.0としている。

- 産業用地価格DIIは、実感が県央部のみプラス、予測は県央部及び内陸南部がプラス。
- 産業用地取引件数DIIは、沿岸南部の実感がマイナスとなり、実感・予測とも全ての地域でマイナス。

問3、4

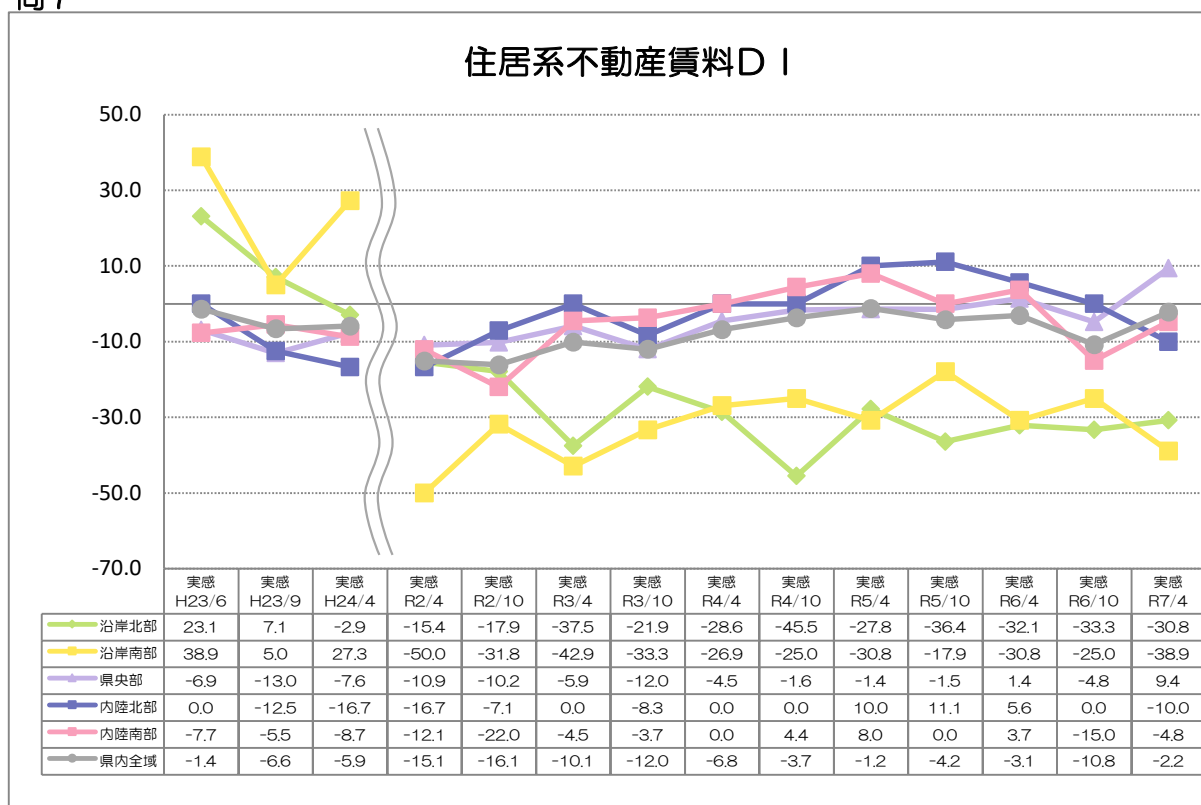


問5、6

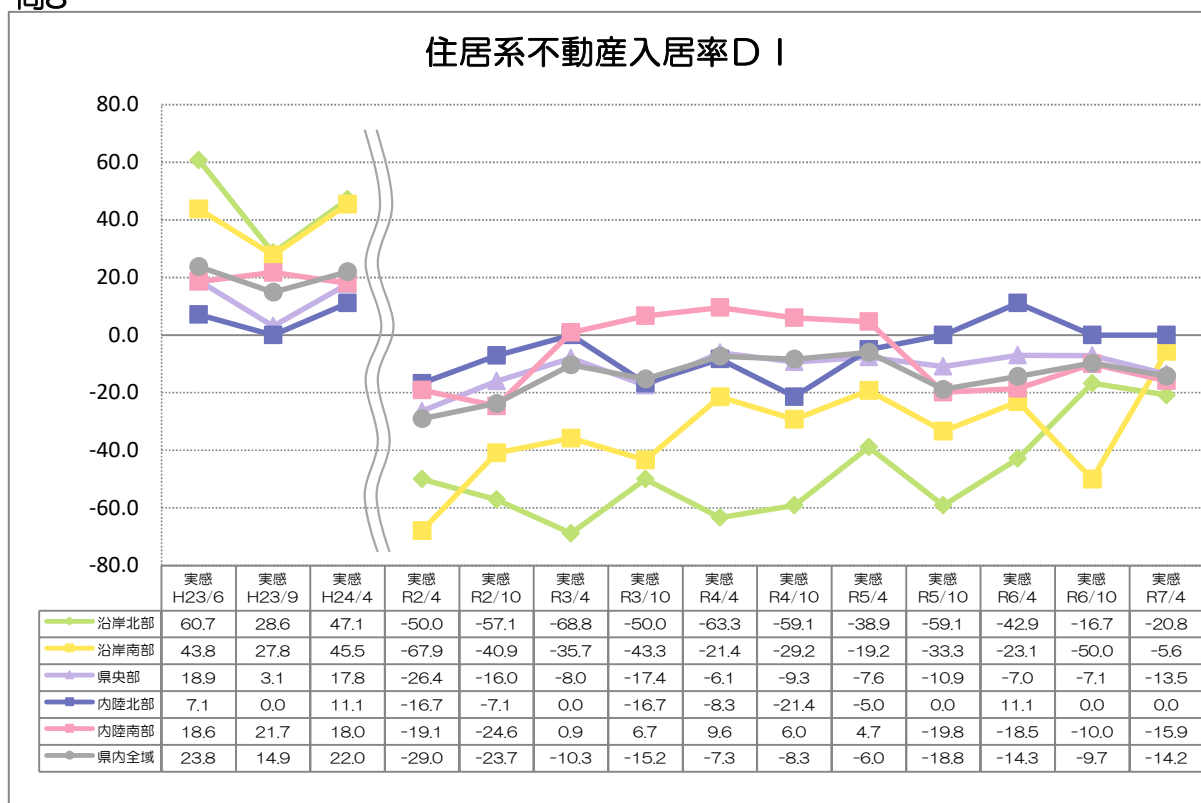


- 中古住宅価格DIは、沿岸南部及び内陸南部の実感がマイナスとなり、実感・予測とも県央部のみプラス。
- 中古住宅取引件数DIは、実感は全ての地域でマイナス、予測は県央部及び内陸南部がプラス。

問7

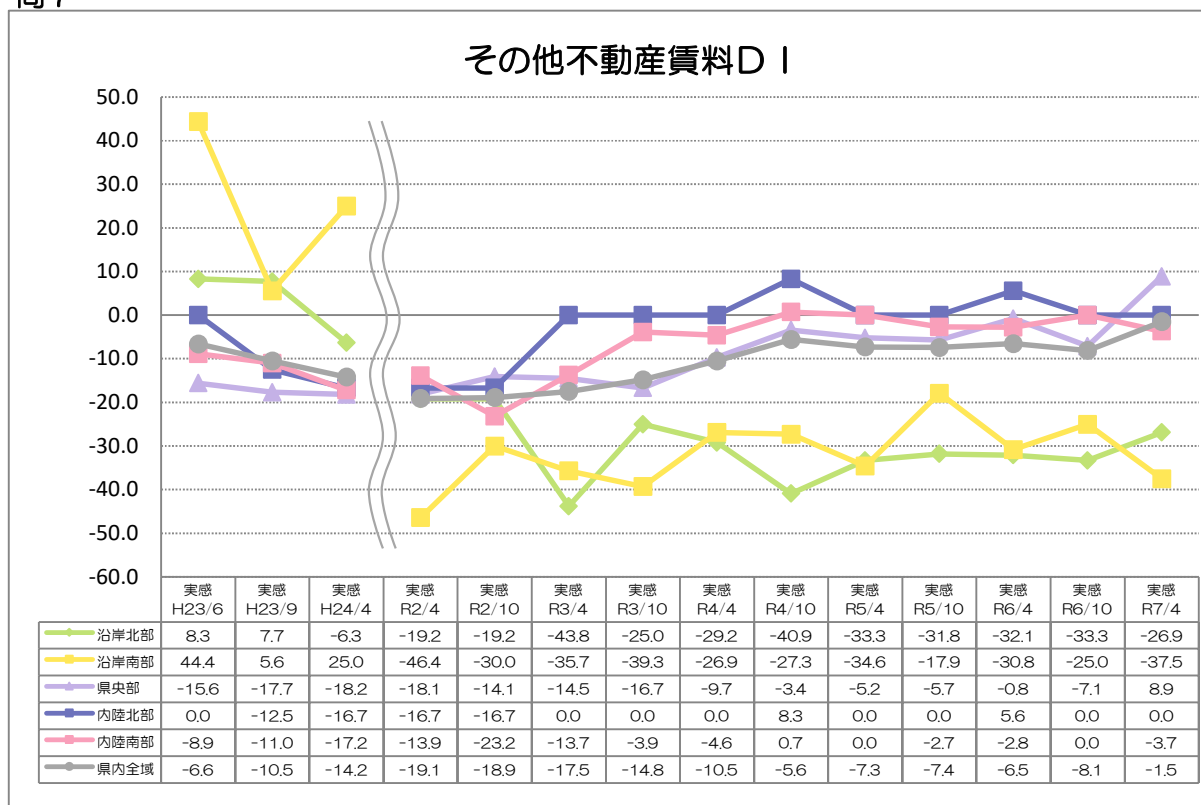


問8

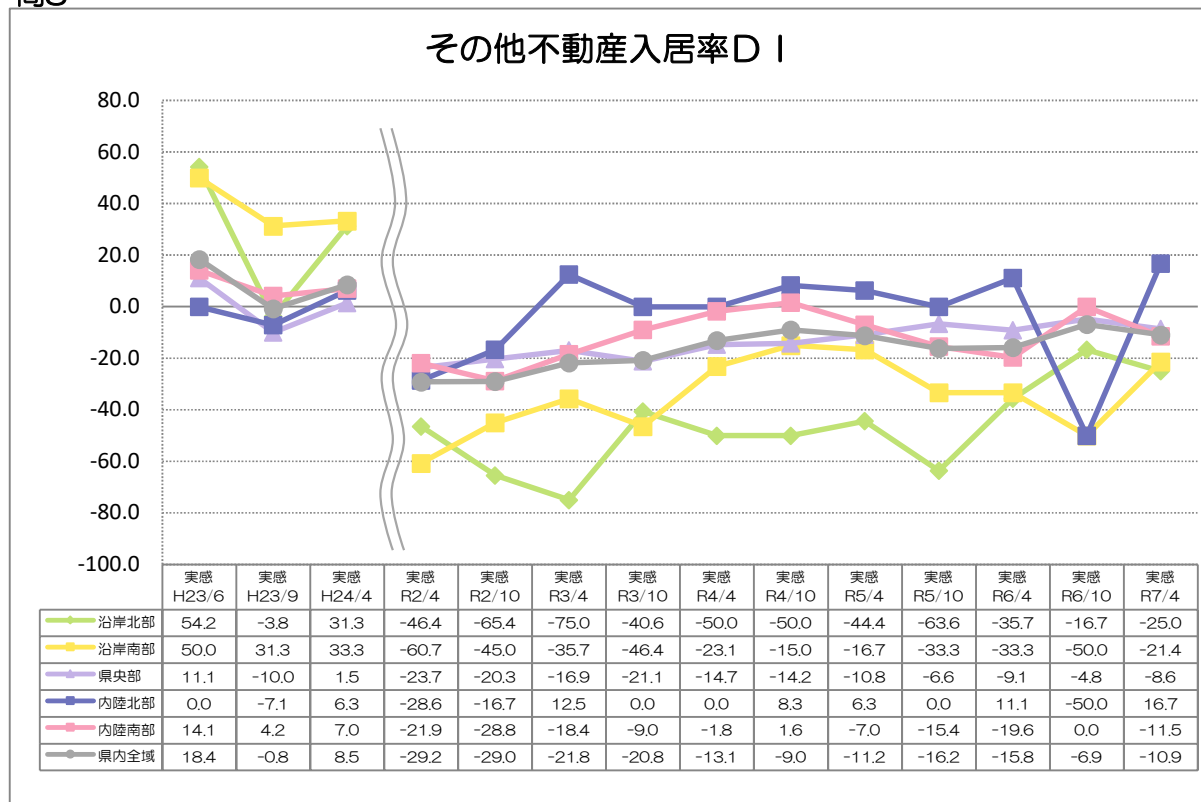


- 住居系不動産賃料DIは、県中部が再びプラスとなった一方、内陸北部が横ばいからマイナスとなり、県中部のみがプラス。
- 住居系不動産入居率DIは、引き続き、内陸北部のみ横ばいで他地域はマイナス。

問7



問8



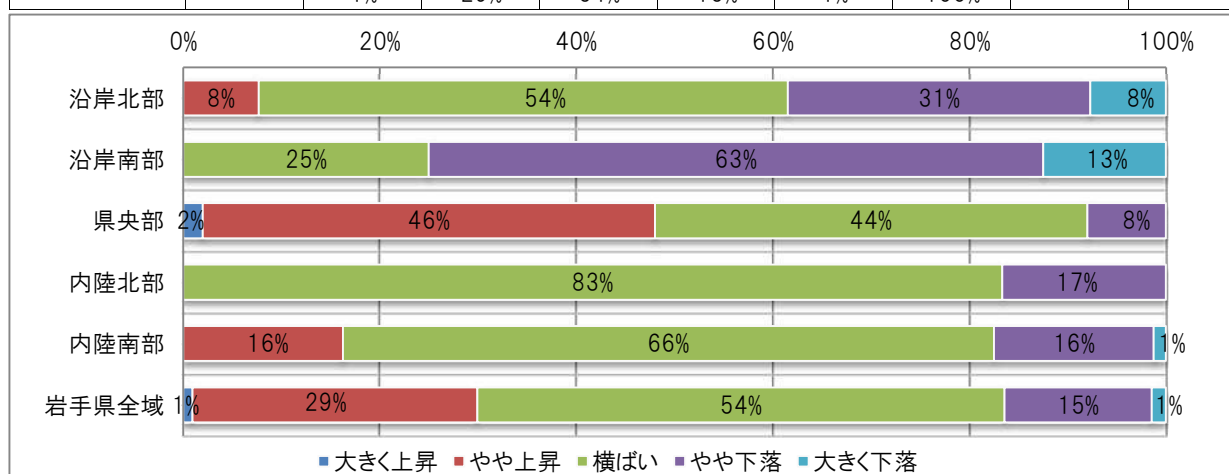
- その他不動産賃料DIは、県央部が再びプラスとなった一方、内陸南部がマイナスとなり、県央部のみがプラス。
- その他不動産入居率DI、内陸北部がプラスに、内陸南部がマイナスとなった結果、県央部のみプラスで他地域はマイナス。

2. 設問ごとの回答内訳

問3:取引価格の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較 ①

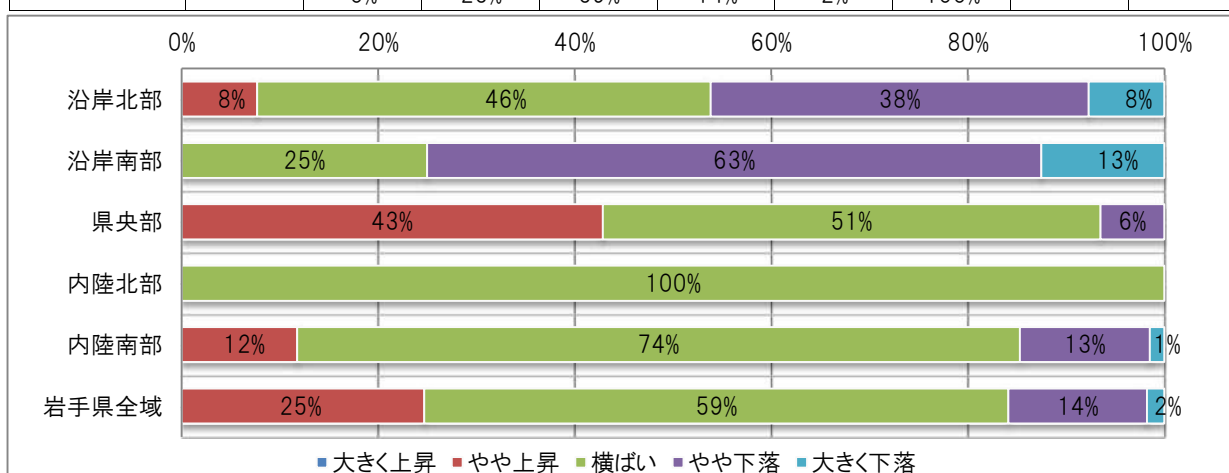
【住宅地】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-19.2	0 0%	1 8%	7 54%	4 31%	1 8%	13 100%	1	14
沿岸南部	-43.8	0 0%	0 0%	2 25%	5 63%	1 13%	8 100%	1	9
県央部	21.0	2 2%	46 46%	44 44%	8 8%	0 0%	100 100%	3	103
内陸北部	-8.3	0 0%	0 0%	5 83%	1 17%	0 0%	6 100%	0	6
内陸南部	-1.3	0 0%	13 16%	53 66%	13 16%	1 1%	80 100%	4	84
岩手県全域	6.5	2 1%	60 29%	111 54%	31 15%	3 1%	207 100%	9	216



【商業地】

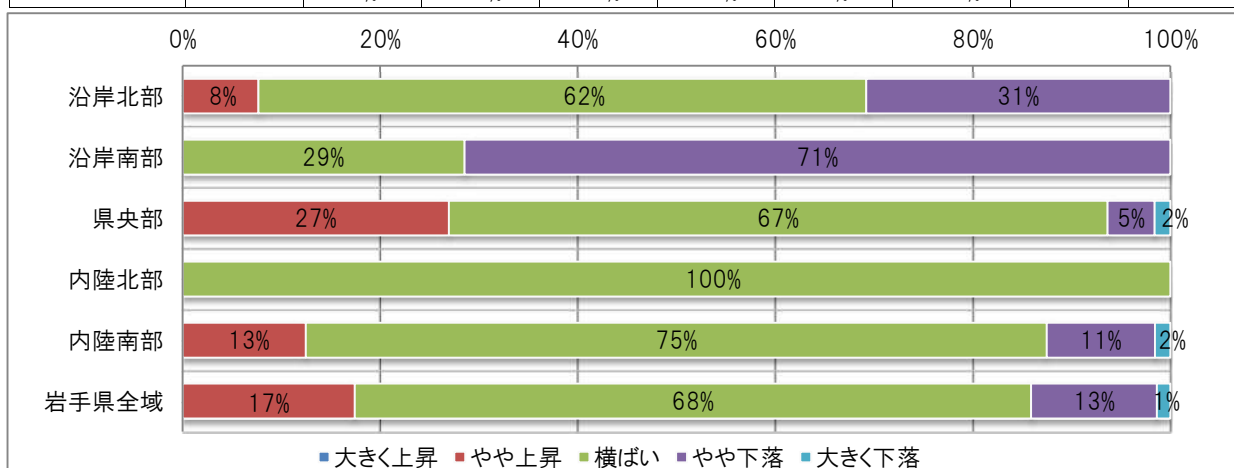
エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-23.1	0 0%	1 8%	6 46%	5 38%	1 8%	13 100%	1	14
沿岸南部	-43.8	0 0%	0 0%	2 25%	5 63%	1 13%	8 100%	1	9
県央部	18.2	0 0%	33 43%	39 51%	5 6%	0 0%	77 100%	26	103
内陸北部	0.0	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	4 100%	2	6
内陸南部	-2.2	0 0%	8 12%	50 74%	9 13%	1 1%	68 100%	16	84
岩手県全域	3.5	0 0%	42 25%	101 59%	24 14%	3 2%	170 100%	46	216



問3:取引価格の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較 ②

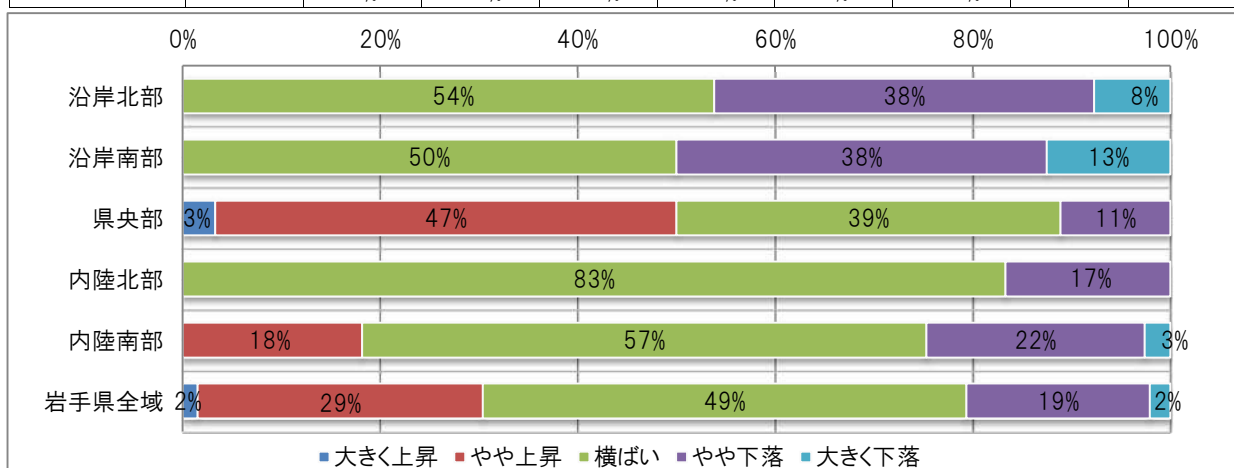
【産業用地】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-11.5	0	1	8	4	0	13	1	14
		0%	8%	62%	31%	0%	100%		
沿岸南部	-35.7	0	0	2	5	0	7	2	9
		0%	0%	29%	71%	0%	100%		
県央部	9.5	0	17	42	3	1	63	40	103
		0%	27%	67%	5%	2%	100%		
内陸北部	0.0	0	0	2	0	0	2	4	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
内陸南部	-0.8	0	8	48	7	1	64	20	84
		0%	13%	75%	11%	2%	100%		
岩手県全域	1.0	0	26	102	19	2	149	67	216
		0%	17%	68%	13%	1%	100%		



【中古住宅】

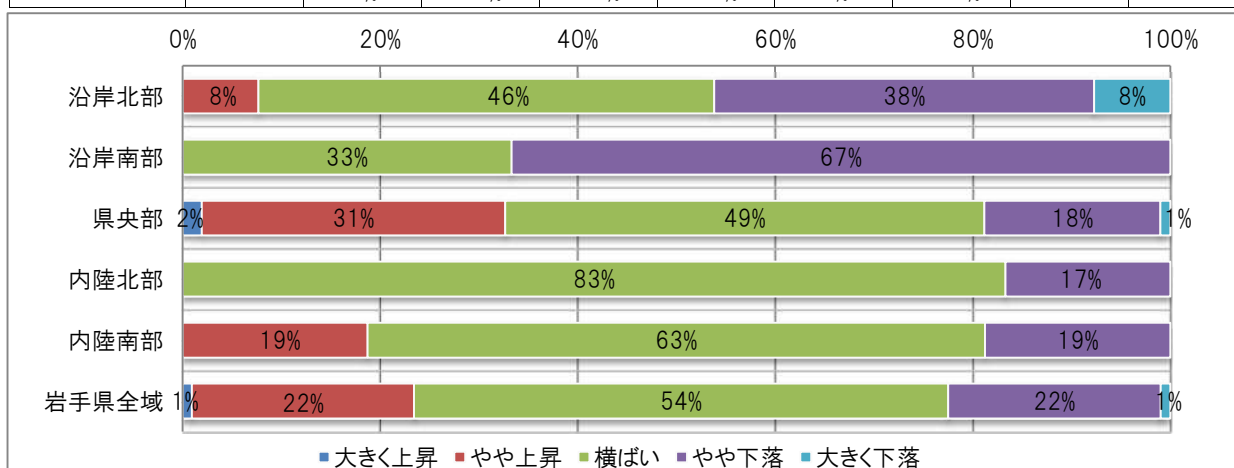
エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-26.9	0	0	7	5	1	13	1	14
		0%	0%	54%	38%	8%	100%		
沿岸南部	-31.3	0	0	4	3	1	8	1	9
		0%	0%	50%	38%	13%	100%		
県央部	21.1	3	42	35	10	0	90	13	103
		3%	47%	39%	11%	0%	100%		
内陸北部	-8.3	0	0	5	1	0	6	0	6
		0%	0%	83%	17%	0%	100%		
内陸南部	-4.5	0	14	44	17	2	77	7	84
		0%	18%	57%	22%	3%	100%		
岩手県全域	4.6	3	56	95	36	4	194	22	216
		2%	29%	49%	19%	2%	100%		



問4:6ヶ月後の取引価格の予測 ①

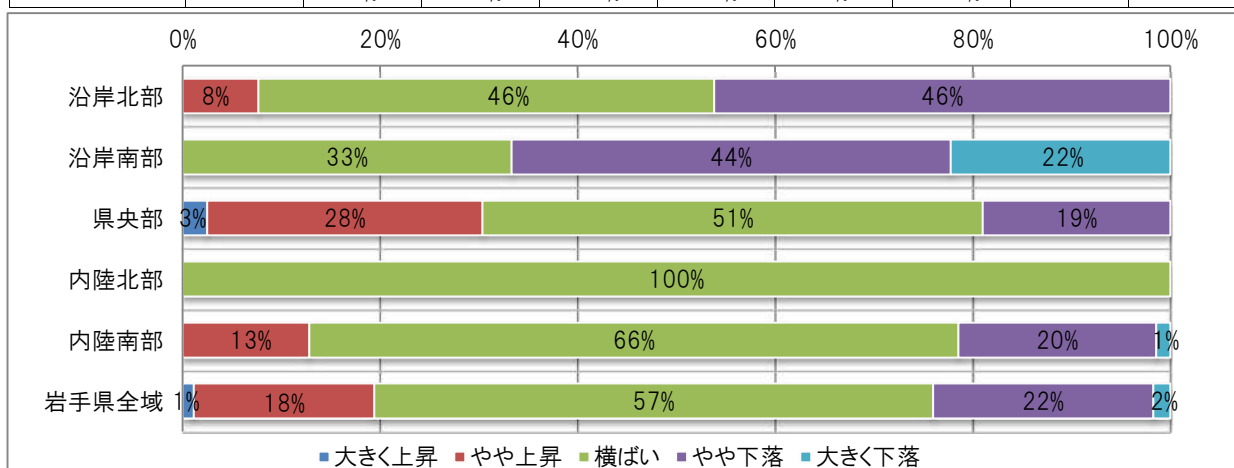
【住宅地】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-23.1	0	1	6	5	1	13	1	14
		0%	8%	46%	38%	8%	100%		
沿岸南部	-33.3	0	0	3	6	0	9	0	9
		0%	0%	33%	67%	0%	100%		
県央部	7.4	2	31	49	18	1	101	2	103
		2%	31%	49%	18%	1%	100%		
内陸北部	-8.3	0	0	5	1	0	6	0	6
		0%	0%	83%	17%	0%	100%		
内陸南部	0.0	0	15	50	15	0	80	4	84
		0%	19%	63%	19%	0%	100%		
岩手県全域	0.5	2	47	113	45	2	209	7	216
		1%	22%	54%	22%	1%	100%		



【商業地】

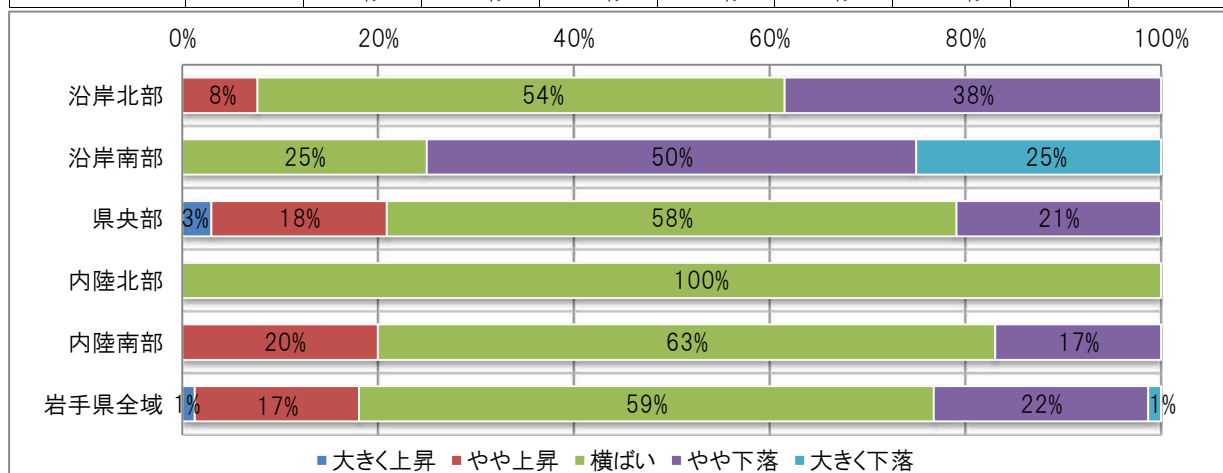
エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-19.2	0	1	6	6	0	13	1	14
		0%	8%	46%	46%	0%	100%		
沿岸南部	-44.4	0	0	3	4	2	9	0	9
		0%	0%	33%	44%	22%	100%		
県央部	7.0	2	22	40	15	0	79	24	103
		3%	28%	51%	19%	0%	100%		
内陸北部	0.0	0	0	4	0	0	4	2	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
内陸南部	-5.0	0	9	46	14	1	70	14	84
		0%	13%	66%	20%	1%	100%		
岩手県全域	-2.6	2	32	99	39	3	175	41	216
		1%	18%	57%	22%	2%	100%		



問4:6ヶ月後の取引価格の予測 ②

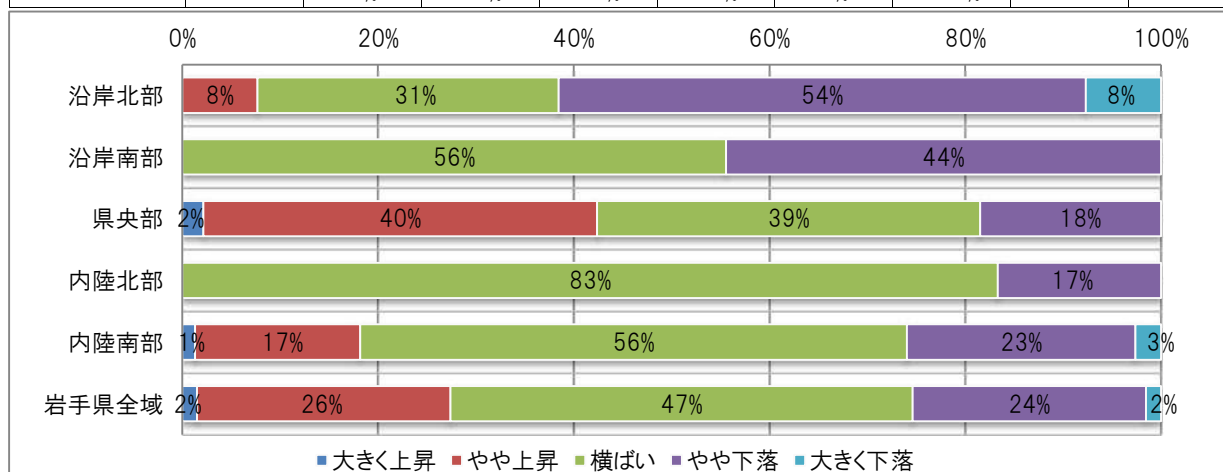
【産業用地】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-15.4	0	1	7	5	0	13	1	14
		0%	8%	54%	38%	0%	100%		
沿岸南部	-50.0	0	0	2	4	2	8	1	9
		0%	0%	25%	50%	25%	100%		
県央部	1.5	2	12	39	14	0	67	36	103
		3%	18%	58%	21%	0%	100%		
内陸北部	0.0	0	0	2	0	0	2	4	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
内陸南部	1.5	0	13	41	11	0	65	19	84
		0%	20%	63%	17%	0%	100%		
岩手県全域	-2.6	2	26	91	34	2	155	61	216
		1%	17%	59%	22%	1%	100%		



【中古住宅】

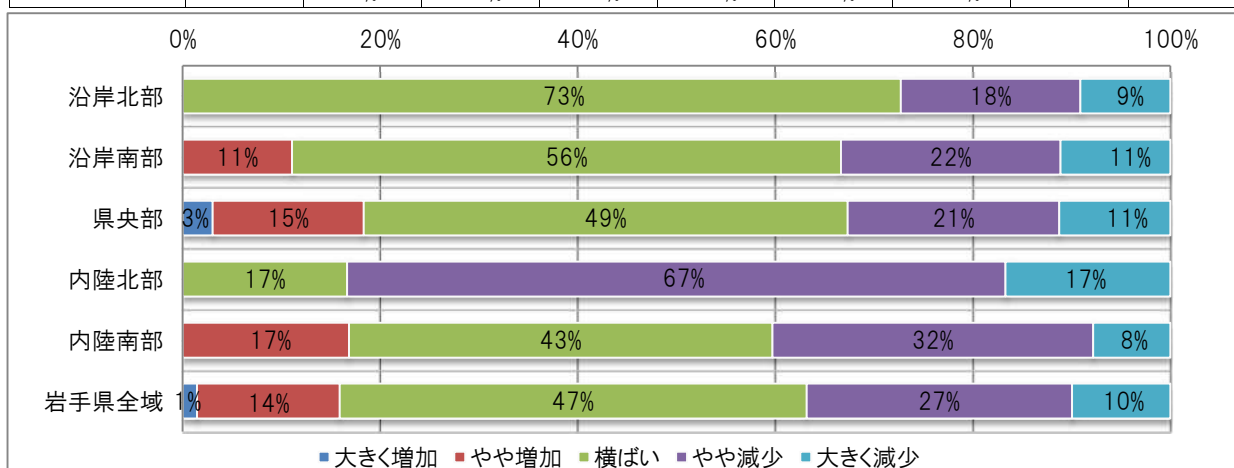
エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-30.8	0	1	4	7	1	13	1	14
		0%	8%	31%	54%	8%	100%		
沿岸南部	-22.2	0	0	5	4	0	9	0	9
		0%	0%	56%	44%	0%	100%		
県央部	13.0	2	37	36	17	0	92	11	103
		2%	40%	39%	18%	0%	100%		
内陸北部	-8.3	0	0	5	1	0	6	0	6
		0%	0%	83%	17%	0%	100%		
内陸南部	-4.5	1	13	43	18	2	77	7	84
		1%	17%	56%	23%	3%	100%		
岩手県全域	1.0	3	51	93	47	3	197	19	216
		2%	26%	47%	24%	2%	100%		



問5:取引件数の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較 ①

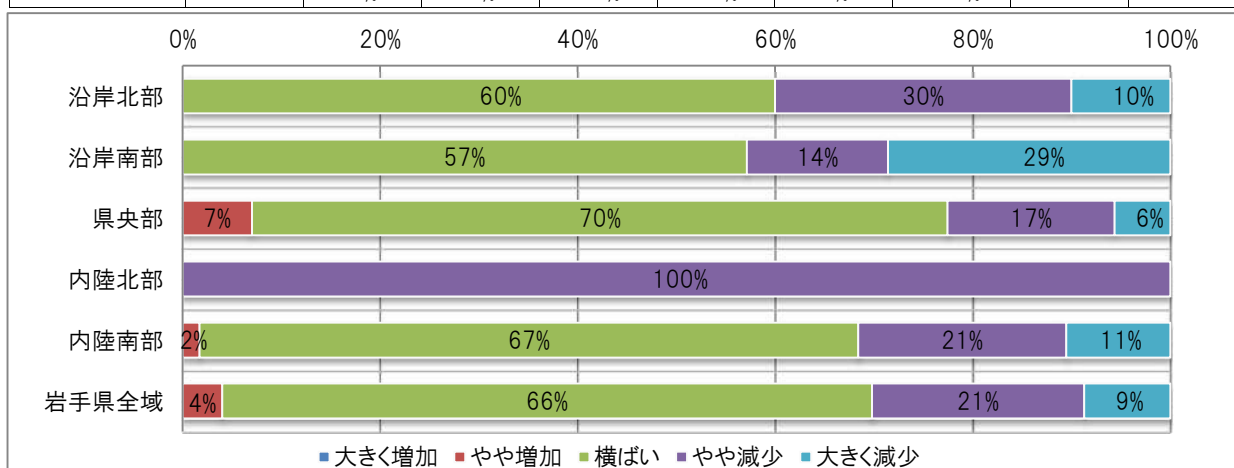
【住宅地】

エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-18.2	0	0	8	2	1	11	3	14
		0%	0%	73%	18%	9%	100%		
沿岸南部	-16.7	0	1	5	2	1	9	0	9
		0%	11%	56%	22%	11%	100%		
県央部	-11.2	3	15	48	21	11	98	5	103
		3%	15%	49%	21%	11%	100%		
内陸北部	-50.0	0	0	1	4	1	6	0	6
		0%	0%	17%	67%	17%	100%		
内陸南部	-15.6	0	13	33	25	6	77	7	84
		0%	17%	43%	32%	8%	100%		
岩手県全域	-14.7	3	29	95	54	20	201	15	216
		1%	14%	47%	27%	10%	100%		



【商業地】

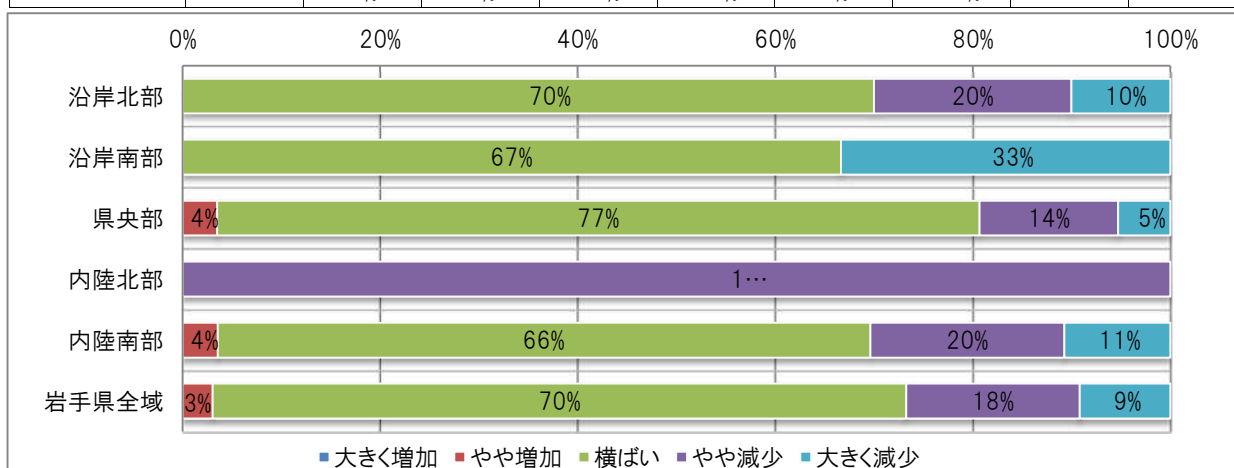
エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-25.0	0	0	6	3	1	10	4	14
		0%	0%	60%	30%	10%	100%		
沿岸南部	-35.7	0	0	4	1	2	7	2	9
		0%	0%	57%	14%	29%	100%		
県央部	-10.6	0	5	50	12	4	71	32	103
		0%	7%	70%	17%	6%	100%		
内陸北部	-50.0	0	0	0	4	0	4	2	6
		0%	0%	0%	100%	0%	100%		
内陸南部	-20.2	0	1	38	12	6	57	27	84
		0%	2%	67%	21%	11%	100%		
岩手県全域	-17.4	0	6	98	32	13	149	67	216
		0%	4%	66%	21%	9%	100%		



問5:取引件数の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較 ②

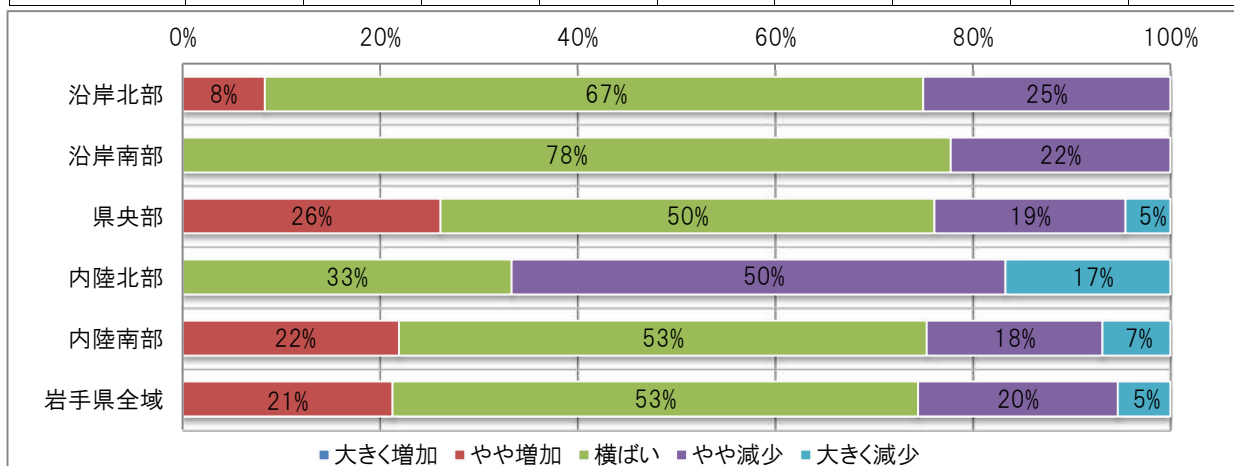
【産業用地】

エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-20.0	0	0	7	2	1	10	4	14
		0%	0%	70%	20%	10%	100%		
沿岸南部	-33.3	0	0	4	0	2	6	3	9
		0%	0%	67%	0%	33%	100%		
県央部	-10.5	0	2	44	8	3	57	46	103
		0%	4%	77%	14%	5%	100%		
内陸北部	-50.0	0	0	0	2	0	2	4	6
		0%	0%	0%	100%	0%	100%		
内陸南部	-18.8	0	2	37	11	6	56	28	84
		0%	4%	66%	20%	11%	100%		
岩手県全域	-16.4	0	4	92	23	12	131	85	216
		0%	3%	70%	18%	9%	100%		



【中古住宅】

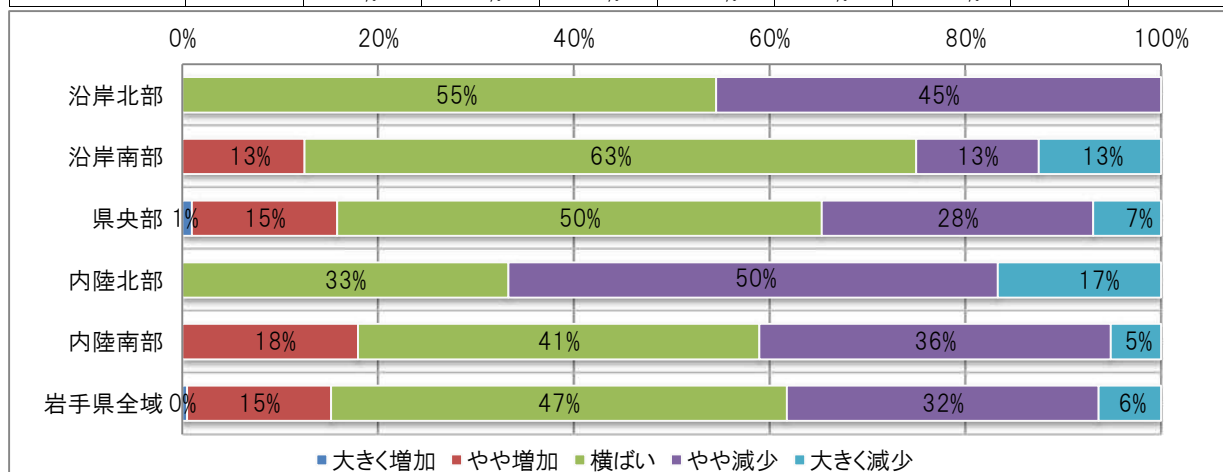
エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-8.3	0	1	8	3	0	12	2	14
		0%	8%	67%	25%	0%	100%		
沿岸南部	-11.1	0	0	7	2	0	9	0	9
		0%	0%	78%	22%	0%	100%		
県央部	-1.1	0	23	44	17	4	88	15	103
		0%	26%	50%	19%	5%	100%		
内陸北部	-41.7	0	0	2	3	1	6	0	6
		0%	0%	33%	50%	17%	100%		
内陸南部	-4.8	0	16	39	13	5	73	11	84
		0%	22%	53%	18%	7%	100%		
岩手県全域	-4.8	0	40	100	38	10	188	28	216
		0%	21%	53%	20%	5%	100%		



問6:6ヶ月後の取引件数の予測 ①

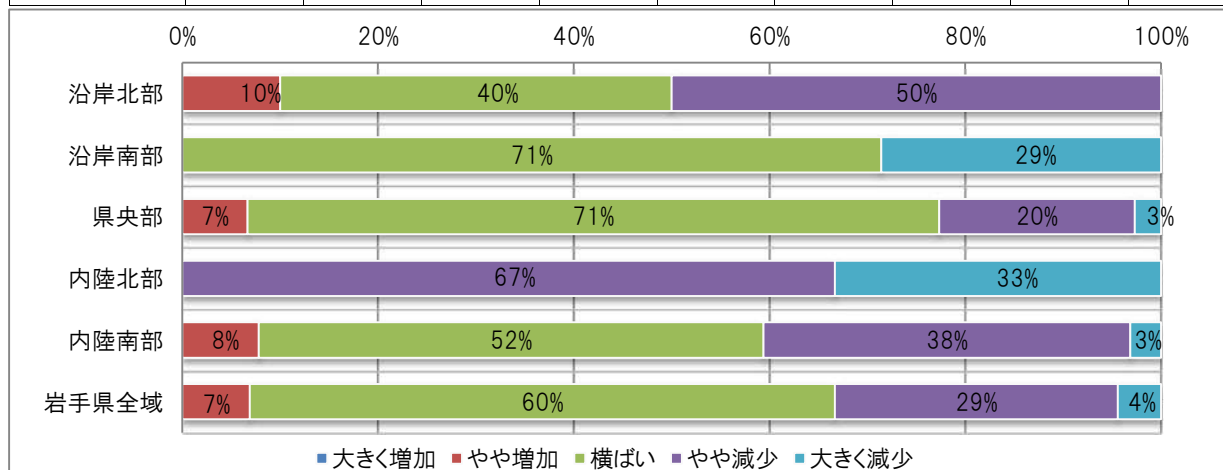
【住宅地】

エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-22.7	0 0%	0 0%	6 55%	5 45%	0 0%	11 100%	3	14
沿岸南部	-12.5	0 0%	1 13%	5 63%	1 13%	1 13%	8 100%	1	9
県央部	-12.4	1 1%	15 15%	50 50%	28 28%	7 7%	101 100%	2	103
内陸北部	-41.7	0 0%	0 0%	2 33%	3 50%	1 17%	6 100%	0	6
内陸南部	-14.1	0 0%	14 18%	32 41%	28 36%	4 5%	78 100%	6	84
岩手県全域	-14.5	1 0%	30 15%	95 47%	65 32%	13 6%	204 100%	12	216



【商業地】

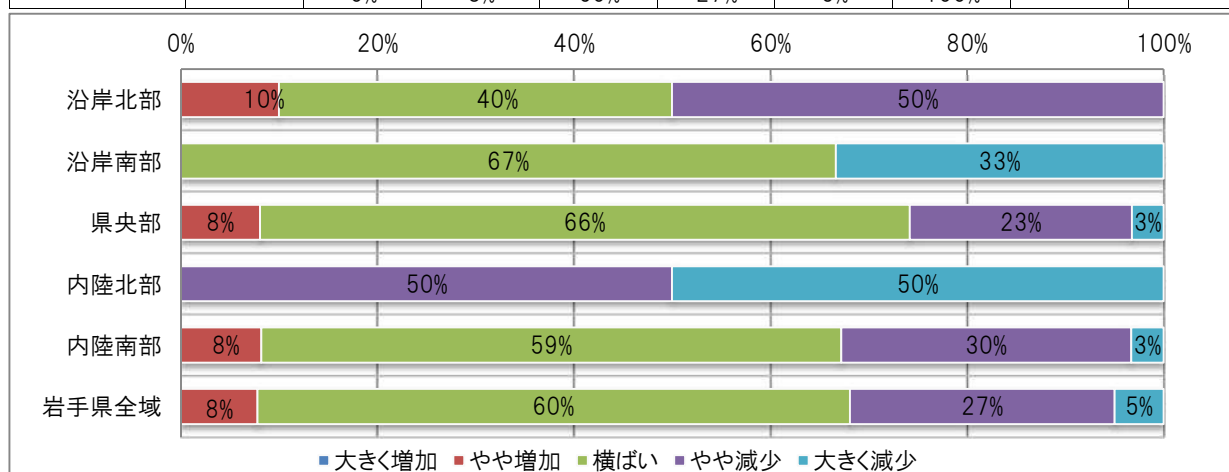
エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-20.0	0 0%	1 10%	4 40%	5 50%	0 0%	10 100%	4	14
沿岸南部	-28.6	0 0%	0 0%	5 71%	0 0%	2 29%	7 100%	2	9
県央部	-9.3	0 0%	5 7%	53 71%	15 20%	2 3%	75 100%	28	103
内陸北部	-66.7	0 0%	0 0%	0 0%	2 67%	1 33%	3 100%	3	6
内陸南部	-18.0	0 0%	5 8%	33 52%	24 38%	2 3%	64 100%	20	84
岩手県全域	-15.4	0 0%	11 7%	95 60%	46 29%	7 4%	159 100%	57	216



問6:6ヶ月後の取引件数の予測 ②

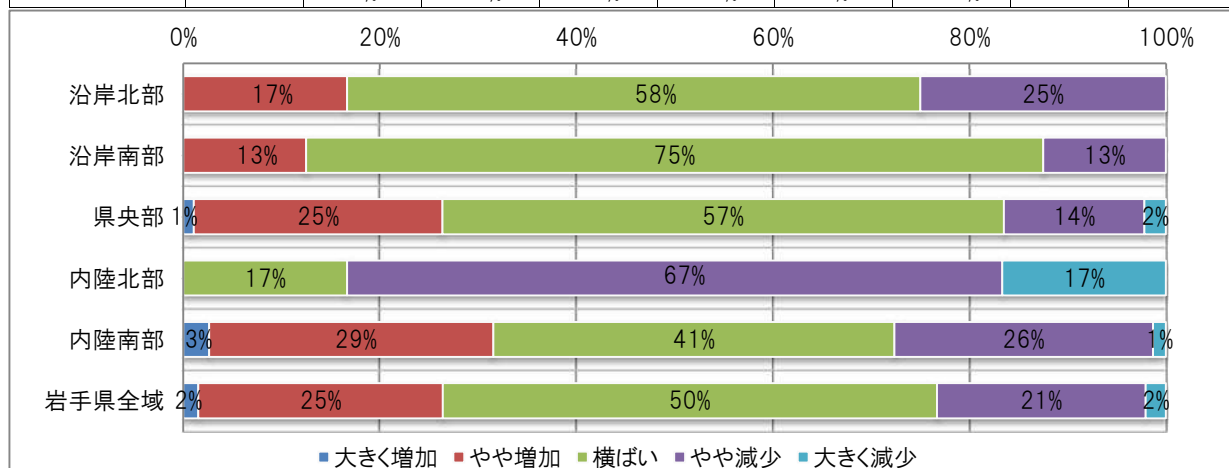
【産業用地】

エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-20.0	0 0%	1 10%	4 40%	5 50%	0 0%	10 100%	4	14
沿岸南部	-33.3	0 0%	0 0%	4 67%	0 0%	2 33%	6 100%	3	9
県央部	-10.5	0 0%	5 8%	41 66%	14 23%	2 3%	62 100%	41	103
内陸北部	-75.0	0 0%	0 0%	0 0%	1 50%	1 50%	2 100%	4	6
内陸南部	-13.9	0 0%	5 8%	36 59%	18 30%	2 3%	61 100%	23	84
岩手県全域	-14.5	0 0%	11 8%	85 60%	38 27%	7 5%	141 100%	75	216



【中古住宅】

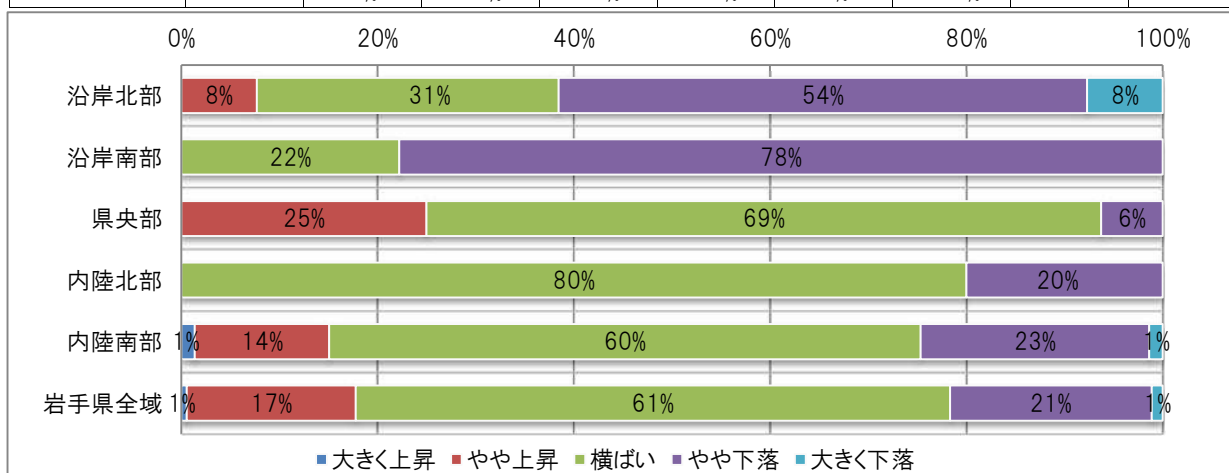
エリア	動向指数	大きく増加	やや増加	横ばい	やや減少	大きく減少	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-4.2	0 0%	2 17%	7 58%	3 25%	0 0%	12 100%	2	14
沿岸南部	0.0	0 0%	1 13%	6 75%	1 13%	0 0%	8 100%	1	9
県央部	4.4	1 1%	23 25%	52 57%	13 14%	2 2%	91 100%	12	103
内陸北部	-50.0	0 0%	0 0%	1 17%	4 67%	1 17%	6 100%	0	6
内陸南部	2.6	2 3%	22 29%	31 41%	20 26%	1 1%	76 100%	8	84
岩手県全域	1.3	3 2%	48 25%	97 50%	41 21%	4 2%	193 100%	23	216



問7:賃料の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較

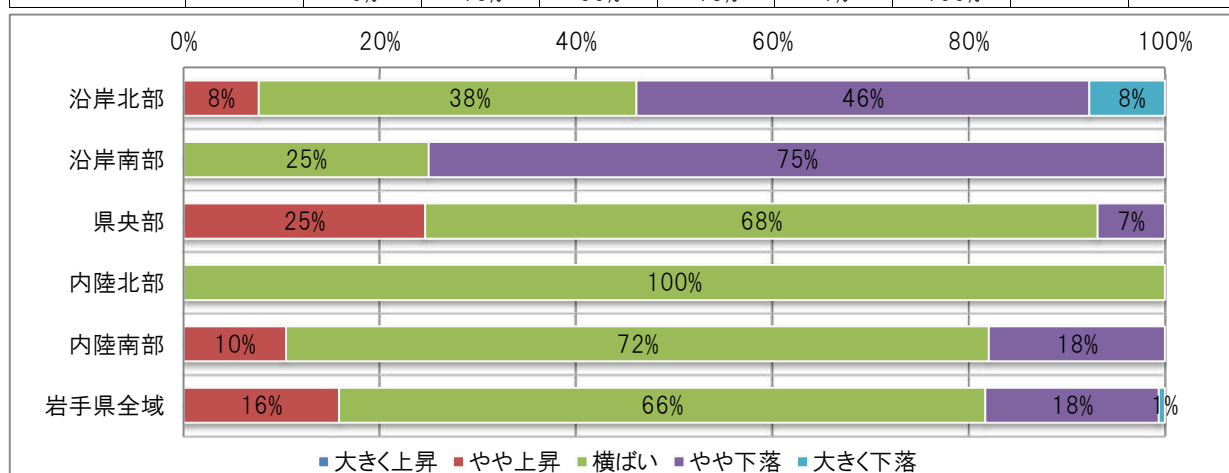
【住居系不動産】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-30.8	0	1	4	7	1	13	1	14
		0%	8%	31%	54%	8%	100%		
沿岸南部	-38.9	0	0	2	7	0	9	0	9
		0%	0%	22%	78%	0%	100%		
県央部	9.4	0	20	55	5	0	80	23	103
		0%	25%	69%	6%	0%	100%		
内陸北部	-10.0	0	0	4	1	0	5	1	6
		0%	0%	80%	20%	0%	100%		
内陸南部	-4.8	1	10	44	17	1	73	11	84
		1%	14%	60%	23%	1%	100%		
岩手県全域	-2.2	1	31	109	37	2	180	36	216
		1%	17%	61%	21%	1%	100%		



【その他不動産】

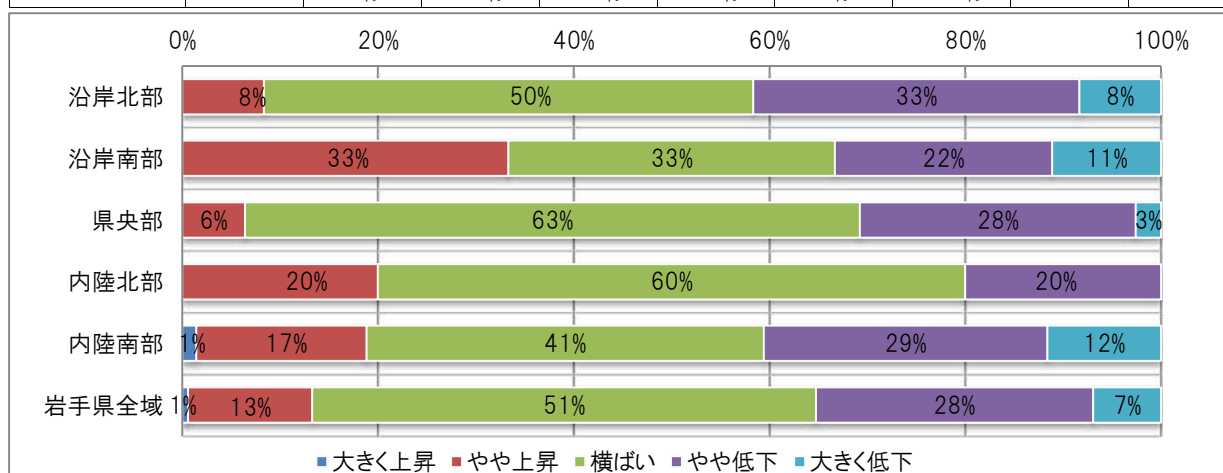
エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	大きく下落	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-26.9	0	1	5	6	1	13	1	14
		0%	8%	38%	46%	8%	100%		
沿岸南部	-37.5	0	0	2	6	0	8	1	9
		0%	0%	25%	75%	0%	100%		
県央部	8.9	0	18	50	5	0	73	30	103
		0%	25%	68%	7%	0%	100%		
内陸北部	0.0	0	0	3	0	0	3	3	6
		0%	0%	100%	0%	0%	100%		
内陸南部	-3.7	0	7	48	12	0	67	17	84
		0%	10%	72%	18%	0%	100%		
岩手県全域	-1.5	0	26	108	29	1	164	52	216
		0%	16%	66%	18%	1%	100%		



問8:入居率の6ヶ月前(R6.10.1時点)との比較

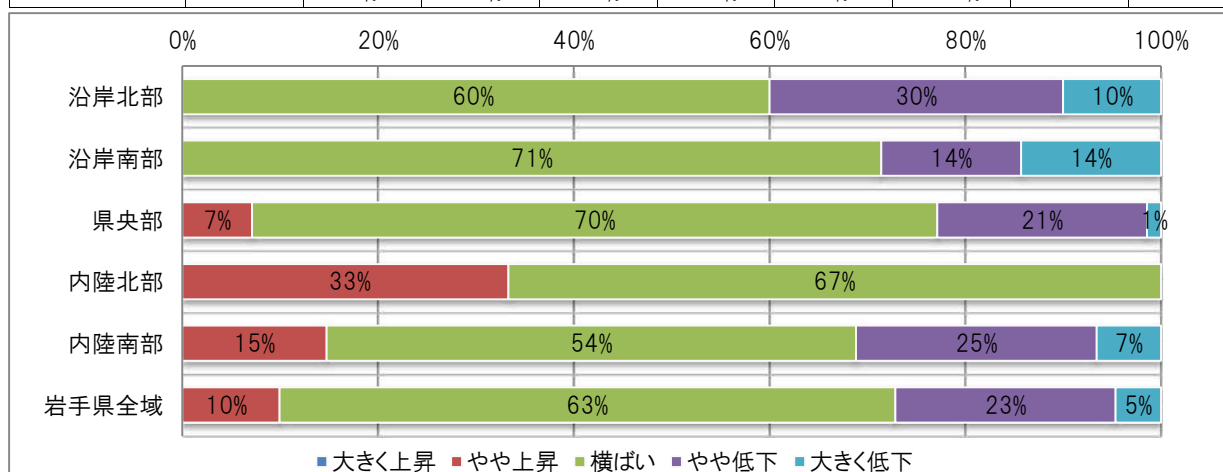
【住居系不動産】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや低下	大きく低下	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-20.8	0	1	6	4	1	12	2	14
		0%	8%	50%	33%	8%	100%		
沿岸南部	-5.6	0	3	3	2	1	9	0	9
		0%	33%	33%	22%	11%	100%		
県央部	-13.5	0	5	49	22	2	78	25	103
		0%	6%	63%	28%	3%	100%		
内陸北部	0.0	0	1	3	1	0	5	1	6
		0%	20%	60%	20%	0%	100%		
内陸南部	-15.9	1	12	28	20	8	69	15	84
		1%	17%	41%	29%	12%	100%		
岩手県全域	-14.2	1	22	89	49	12	173	43	216
		1%	13%	51%	28%	7%	100%		



【その他不動産】

エリア	動向指数	大きく上昇	やや上昇	横ばい	やや低下	大きく低下	小計	不明 無回答	合計
沿岸北部	-25.0	0	0	6	3	1	10	4	14
		0%	0%	60%	30%	10%	100%		
沿岸南部	-21.4	0	0	5	1	1	7	2	9
		0%	0%	71%	14%	14%	100%		
県央部	-8.6	0	5	49	15	1	70	33	103
		0%	7%	70%	21%	1%	100%		
内陸北部	16.7	0	1	2	0	0	3	3	6
		0%	33%	67%	0%	0%	100%		
内陸南部	-11.5	0	9	33	15	4	61	23	84
		0%	15%	54%	25%	7%	100%		
岩手県全域	-10.9	0	15	95	34	7	151	65	216
		0%	10%	63%	23%	5%	100%		



お問い合わせ窓口

一般社団法人 岩手県不動産鑑定士協会

調査研究委員長 新沼 輝雄（不動産鑑定士）
（所属） 新沼不動産鑑定事務所
〒020-0873 盛岡市松尾町1-7
電話019-613-9292 FAX019-613-9293

一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会の概要

団体名：一般社団法人 岩手県宅地建物取引業協会
代表者名：会長 安藤 敏樹
発足：昭和42年7月
会員数：591会員（準会員を含む）
所在地：盛岡市前九年1-9-30
電話番号：019-646-1111

公益社団法人 全日本不動産協会岩手県本部の概要

団体名：公益社団法人 全日本不動産協会岩手県本部
代表者名：本部長 浅沼 儀洋
発足：昭和36年11月
会員数：143会員
所在地：盛岡市八幡町1番9-101
電話番号：019-625-5900

一般社団法人 岩手県不動産鑑定士協会の概要

団体名：一般社団法人 岩手県不動産鑑定士協会
代表者名：会長 中井 孝
発足：平成21年4月
会員数：不動産鑑定士23名、不動産鑑定業者20社
所在地：盛岡市大通1-3-4 宏陽ビル6階
電話番号：019-604-3070

※ 無断複製転載を禁じます。